

# 小樽市経済動向調査結果

1. 調査期間：2025年7月から9月
2. 調査対象：小樽市内の企業261社
3. 内 訳：製造業56、卸売業27、小売業42、運輸・倉庫業20、観光業44  
サービス業39、建設業33
4. 回答企業数：138社（52.9%）
5. 調査方法：調査票によるアンケート

※DI（景気動向指数：ディフュージョン・インデックス）とは・・・

好転（増加）企業割合から悪化（減少）企業割合を差し引いた値のことで、この数値がプラスかマイナスか、そしてその大きさによって景気の動きを時期的な推移の中で把握します。

## 概 況

－売上DIはプラス水準であったが採算DIは2期連続、業況DIは13期ぶりのマイナス水準に－  
前年同期（2024年7月～9月）と比べた今期（2025年7月～9月）の状況  
今期と比べた来期（2025年10月～12月）の予想

全業種における企業の景況感を示す業況判断DIは▲7.6で、前年同期比で16.9ポイント低下しました。主要3項目の売上DIは14期連続でプラス水準で推移しましたが、業況DIは13期ぶりにマイナスに転じ、採算DIは2期連続でマイナス水準で推移しました。来期は、業況DI、売上DI、採算DIの主要3項目全ての低下が予想されています。

製造業では、売上DIが前年同期比6.2ポイント上昇の0.0、採算DIは同8.9ポイント低下の▲21.4でした。業況DIは同13.8ポイント低下の▲10.7ポイントとなりマイナスに転じました。

卸売業では、売上DIが同23.0ポイント低下の▲7.2、採算DIは同21.5ポイント低下の▲21.5、業況DIは同27.1ポイント低下の▲21.5となり、いずれもマイナスに転じました。

小売業では、売上DIが同43.1ポイント低下の▲31.3、採算DIは同44.1ポイント低下の▲50.0でした。業況DIは同25.0ポイント低下の▲25.0となりマイナスに転じました。在庫数量DIについては同11.8ポイント低下し0.0となりました。

運輸・倉庫業では、売上DIが同18.3ポイント上昇の33.3、採算DIは同38.7ポイント上昇の18.7でプラスに転じましたが、業況DIは同0.8ポイント低下の12.5となりました。在庫量DI、出庫量DI、保管残高DI、いずれも40.0ポイント以上の大幅な上昇となりました。

観光業では、売上DIが同15.5ポイント低下の16.7、採算DIは同41.1ポイント低下の▲25.0、業況DIは同42.6ポイント低下の▲8.3となり、いずれもマイナスに転じました。

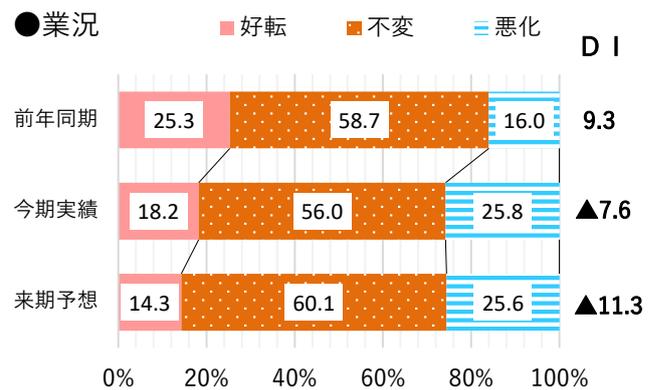
サービス業では、売上DIが同14.0ポイント上昇の35.0、採算DIは同36.0ポイント上昇の15.0となりプラスに転じました。業況DIは同15.0ポイント上昇の15.0となりました。利用客数DIについては同35.5ポイントの上昇で、25.0ポイントとなりプラスに転じました。

建設業では、売上DIが同38.7ポイント低下の▲30.0となり、採算DIは同20.7ポイント低下の▲25.0、業況DIは23.7ポイント低下の▲15.0となり、いずれもマイナスに転じました。

業況、売上、採算

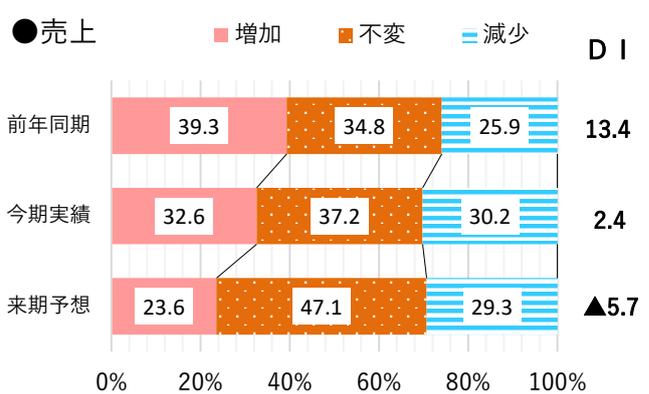
今期（2025.7～9）の業況判断DIは▲7.6で、前年同期（2024.7～9）と比べ16.9ポイント低下しました。

来期（2025.10～12）の業況DIは今期（2025.7～9）と比べ3.7ポイント低下すると予想しています。



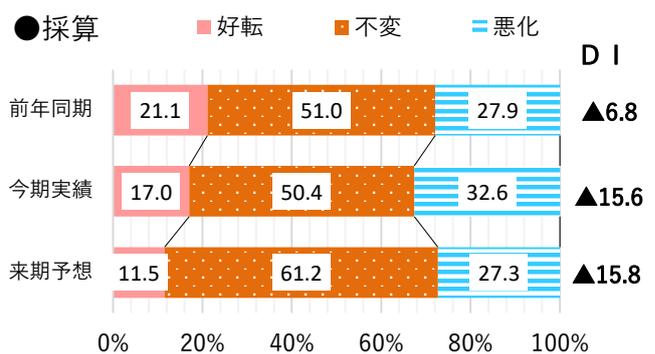
今期の売上DIは2.4で、前年同期と比べ11.0ポイント低下しました。

来期の売上DIは今期と比べ8.1ポイント低下すると予想しています。

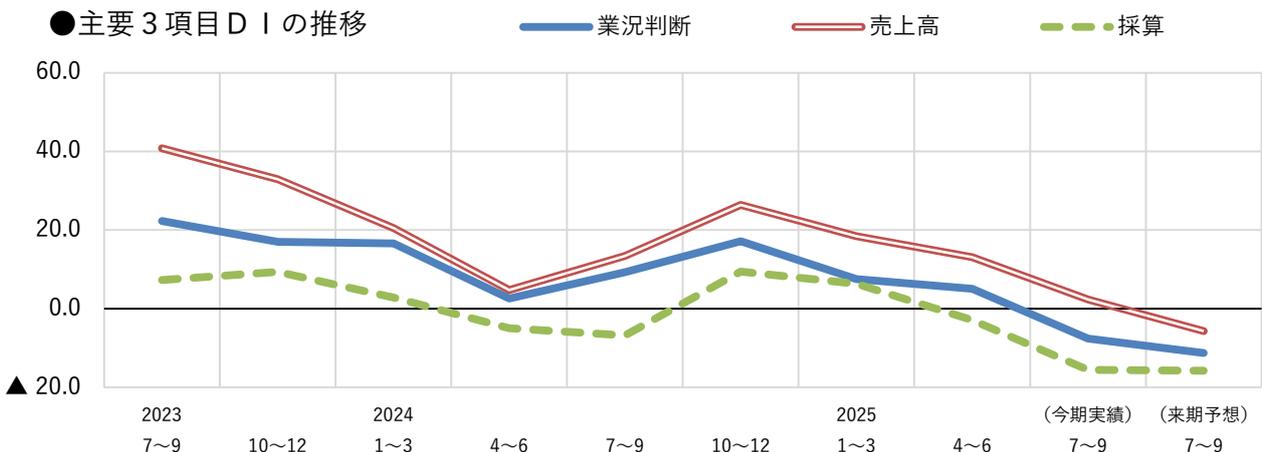


今期の採算DIは▲15.6で、前年同期と比べ8.8ポイント低下しました。

来期の採算DIは今期と比べ0.2ポイント低下すると予想しています。



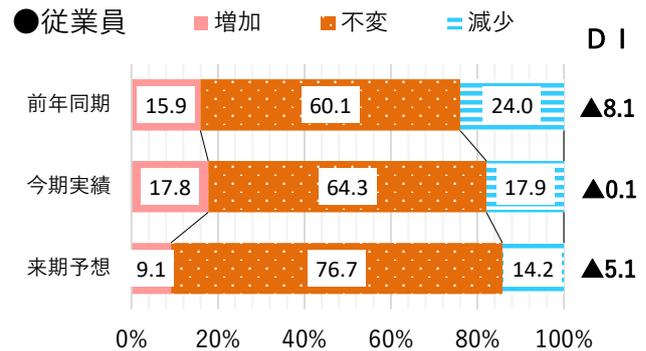
●主要3項目DIの推移



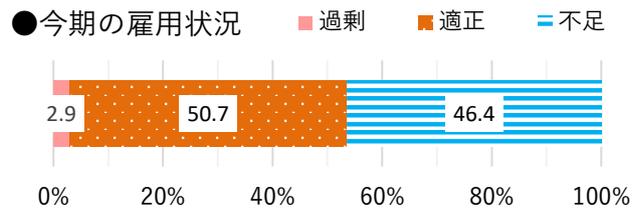
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲0.1で、前年同期と比べ8.0ポイント上昇しました。

来期の従業員DIは今期と比べ5.0ポイント低下すると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は2.9%、適正であると回答した企業の割合は50.7%、不足していると回答した企業の割合は46.4%でした。



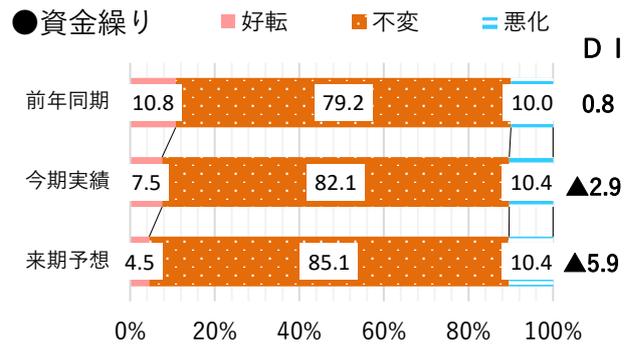
従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、適正である」という回答で、41.3%を占めました。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	3
	適正	9
	不足	13
不変だった	過剰	1
	適正	57
	不足	30
減少した	過剰	0
	適正	4
	不足	21

資金繰り、設備投資

今期の資金繰りDIは▲2.9で、前年同期と比べ3.7ポイント低下しました。

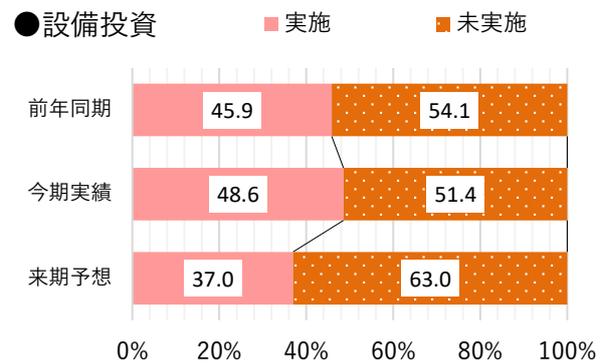
来期の資金繰りDIは今期と比べ3.0ポイント低下すると予想しています。



今期の設備投資は、48.6%が実施と回答し、前年同期と比べ2.7%上昇しました。

投資内容は、1位が「OA機器」、2位が「車両運搬具・輸送機材」、3位が「建物」の順でした。

来期は37.0%が設備投資を計画していると回答しています。

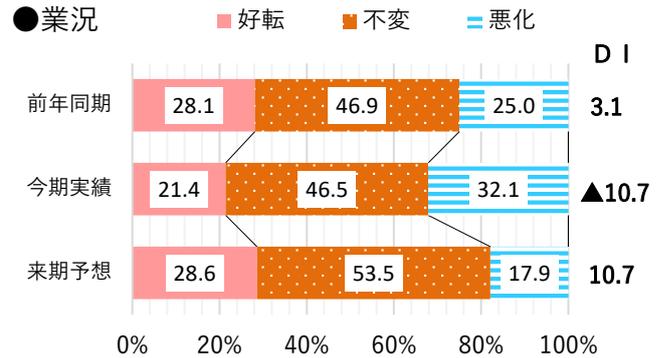


# 製造業

## 業況、売上、採算

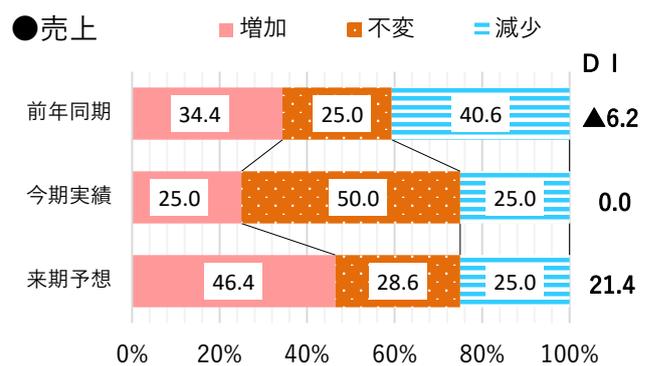
今期（2025.7～9）の業況判断DIは▲10.7で、前年同期（2024.7～9）と比べ13.8ポイント低下しました。

来期（2025.10～12）の業況DIは今期（2025.7～9）と比べ21.4ポイント上昇すると予想しています。



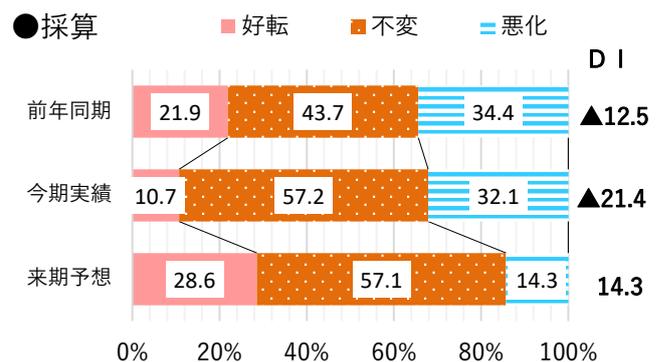
今期の売上DIは0.0で、前年同期と比べ6.2ポイント上昇しました。

来期の売上DIは今期と比べ21.4ポイント上昇すると予想しています。

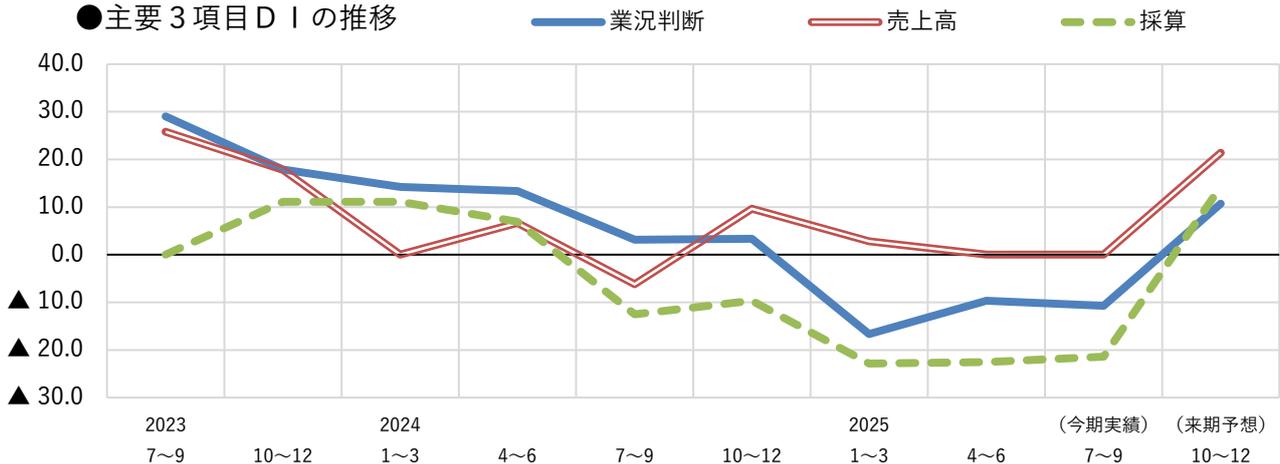


今期の採算DIは▲21.4で、前年同期と比べ8.9ポイント低下しました。

来期の採算DIは今期と比べ35.7ポイントと大幅に上昇すると予想しています。



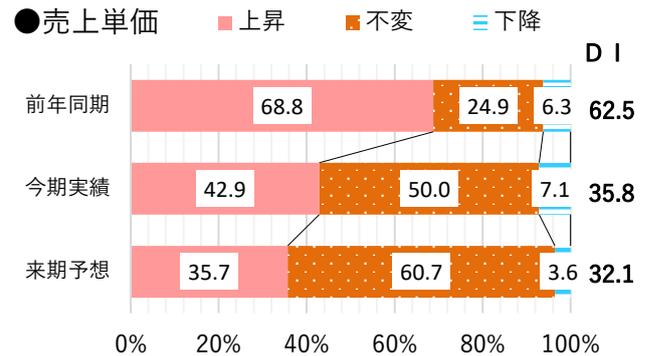
### ●主要3項目DIの推移



売上（加工）単価、原材料仕入単価、設備操業率

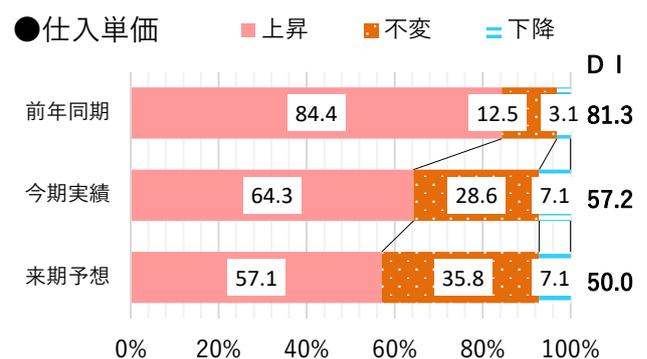
今期の売上単価DIは35.8で、前年同期と比べ26.7ポイント低下しました。

来期の売上単価DIは今期と比べ3.7ポイント低下すると予想しています。



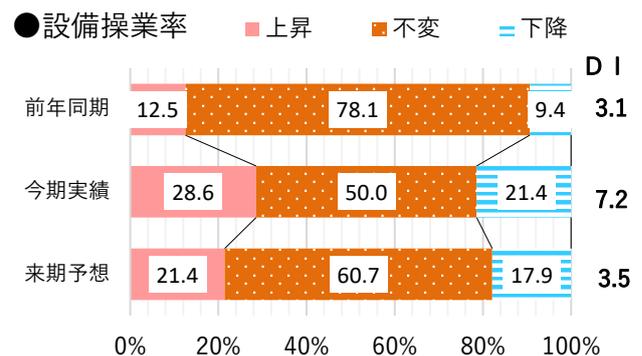
今期の仕入単価DIは57.2で、前年同期と比べ24.1ポイント低下しました。

来期の仕入単価DIは今期と比べ7.2ポイント低下すると予想しています。



今期の設備操業率DIは7.2で、前年同期と比べ4.1ポイント上昇しました。

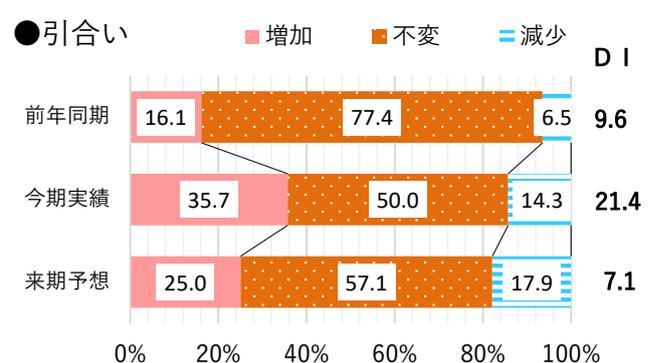
来期の設備操業率DIは今期と比べ3.7ポイント低下すると予想しています。



引合い

今期の引合いDIは21.4で、前年同期と比べ11.8ポイント上昇しました。

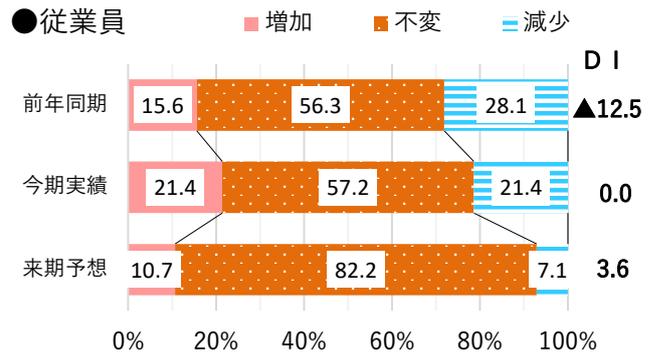
来期の引合いDIは今期と比べ14.3ポイント低下すると予想しています。



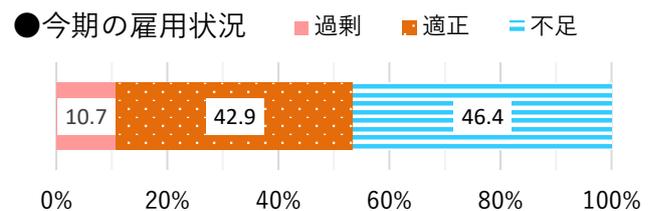
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは0.0で、前年同期と比べ12.5ポイント上昇しました。

来期の従業員DIは今期と比べ3.6ポイント上昇すると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業は10.7%、適正であると回答した企業の割合は42.9%、不足していると回答した企業の割合は46.4%でした。



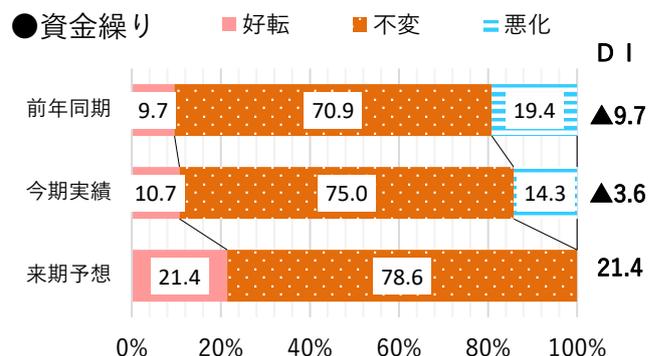
従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは、「従業員数は前年同期比で変わらず、適正である」という回答で、39.3%を占めました。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	2
	適正	1
	不足	3
不変だった	過剰	1
	適正	11
	不足	4
減少した	過剰	0
	適正	0
	不足	6

資金繰り、設備投資

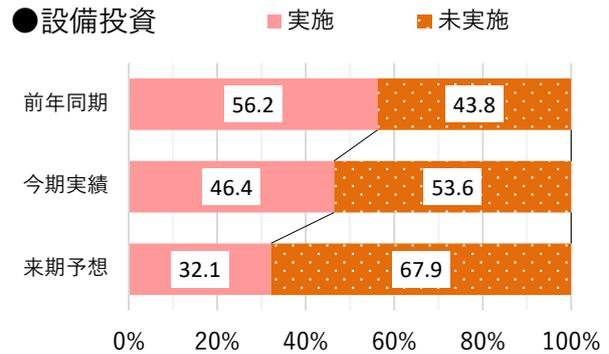
今期の資金繰りDIは▲3.6で、前年同期と比べ6.1ポイント上昇しました。

来期の資金繰りDIは今期と比べ25.0ポイント上昇すると予想しています。



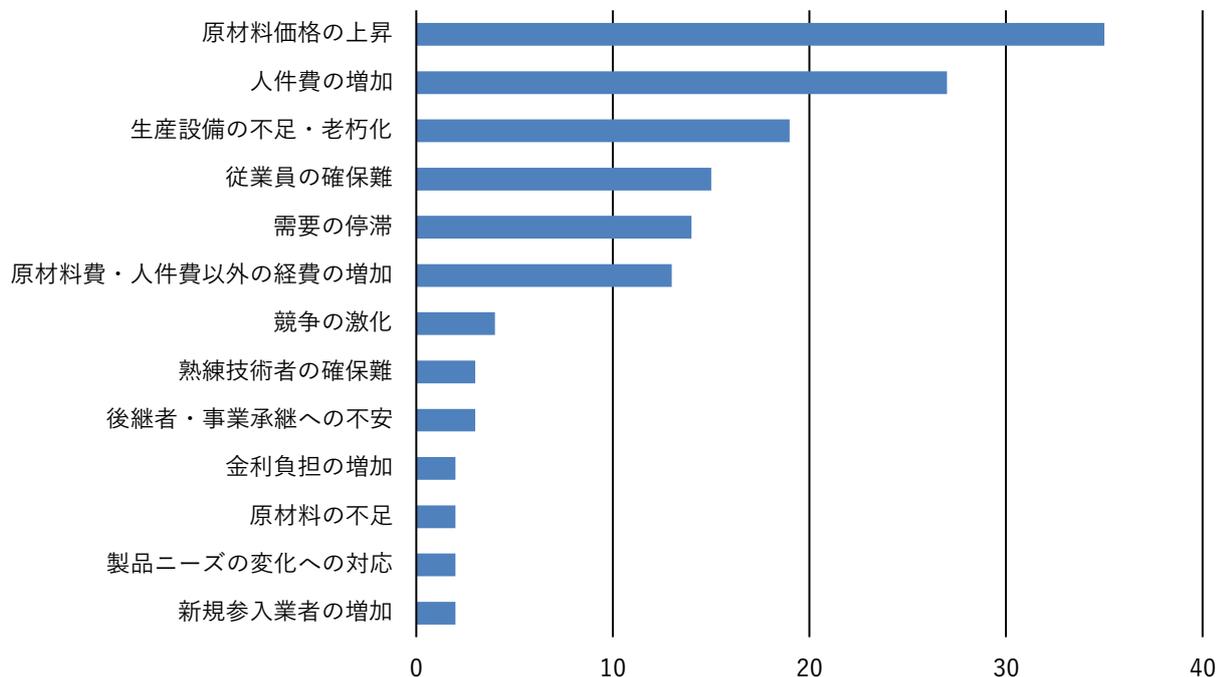
今期の設備投資は46.4%が実施と回答し、前年同期と比べ9.8%低下しました。投資内容は、1位が「生産設備」、2位が「OA機器」でした。

来期は32.1%が設備投資を計画していると回答しています。



### 経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は、1位が「原材料価格の上昇」、2位が「人件費の増加」、3位が「生産設備の不足・老朽化」の順です。



### 企業の声

[今期の業況について]

- 主力製品の値上げにより販売数量、売上が減少し資金繰りは窮屈になったが、値上げ効果により採算は好転した。(食料品)
- 一部原料は手当がつかず、原料価格も急騰しており、在庫も無くなりつつある。(食料品)
- 個人、法人の税制改正を行わないと全ての問題は解決しない。(食料品)
- 海外から仕入れる原料の生産が遅れ、経営状況が悪化した。(食料品)
- 経費を大幅に削減する予定である。(食料品)
- 製品の値上げを実施した。(食料品)
- 大幅に遅れていた複数の大型プロジェクトが順次着工となってきており、1~6月までとは変わってきた。原材料価格は落ち着いた状況が続いている。(金属製品)

- 通常営業である。(金属製品)
- 値上げの影響もあったが、何とか前年並みの売上で推移できた。(飲料)
- 前期は製品値上げを行った関係で仮需要が発生した分が今期の売上高全体を押下げる材料になったが、製品値上げ分が売上高減少分を補っている。必要人材は確保出来ており、最低賃金もクリアしている。(プラスチック)
- 昨年と比べ製品単価が上昇、特に食品単価の大幅な物価上昇により製品出荷量が減少し、売上額はほぼ前年並となった。(プラスチック)
- 原料価格が上昇し人材確保も難しいので、給与体系を見直した。(プラスチック)
- 売上額が増加したが、仕入価格や最低賃金の上昇により人材確保が厳しい。(紙製品)
- 原材料価格の上昇および賃上げの分を価格転嫁で補えなかったことで利益が減少した。また、直営店事業も、悪化の一因になった。(ゴム製品)
- 官公庁向けの加工品の受注数が数年振りに増加した。仕入価格は毎年のように上昇しており、特にレアアースを含む素材の高騰が著しい。また、最低賃金が毎年のように上昇し、利益を取り崩している。(その他繊維製品)

## [来期の業況について]

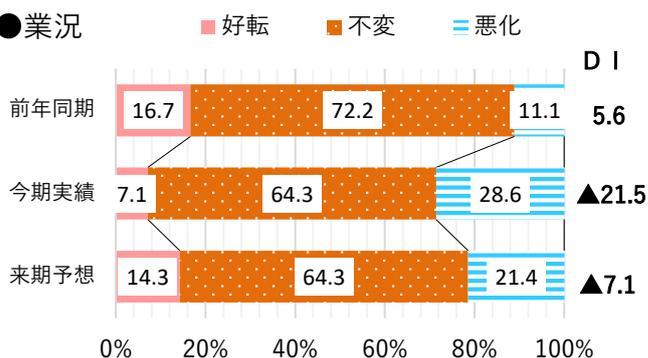
- 民間の活力を削ぐ政治が加速していることから、事業者側が将来について判断することは難しい。  
(食料品)
- 最低賃金の引き上げにより採算が悪化すると見込むが、これ以上の価格転嫁は厳しいと考える。  
(食料品)
- 生産数量を増加させ、需要に対応する。(食料品)
- 引き続き経費の見直しを行う。(食料品)
- 人件費の上昇を予想する。(食料品)
- 今期の業況が続く。(食料品)
- 複数の大型プロジェクトが遅れながらも徐々に動き出したことから需要回復傾向と言えるかもしれない。原材料価格(鋼材価格)は引き続き落ち着いた推移を予想。(金属製品)
- 仕入先からの値上げ通知があった。(金属製品)
- 積極的な新酒販売の販促策により、売上増を図る。(飲料)
- 本来の需要動向に見合った受注となるため売上高は増加と予想する。石油化学製品原料が中国経済下降の影響で値下げが見込まれる。必要人材は確保出来ており、最低賃金もクリアしている。  
(プラスチック)
- 下請会社の最低賃金対応のため、加工賃を値上し、運送料金もさらに値上となることから製品の値上を継続していく。(プラスチック)
- 販売価格は上昇も、原価上昇が上回り収支が減少、また、引き続き人材確保に苦しむと推測する。  
(プラスチック)
- 売上額は今期並で、仕入価格と最低賃金の増加により人材確保が厳しいと予測する。(紙製品)
- 機械の一部故障により、その部門の収益が例年より下回る可能性があり、他部門でカバーできる見込みが無いのも事実である。(ゴム製品)
- 官公庁向けの加工数が減少し最低賃金や仕入単価等が毎年のように上昇しており、利益を圧迫しているので受注の先行きが不透明である。(その他繊維製品)

# 卸 売 業

## 業況、売上、採算

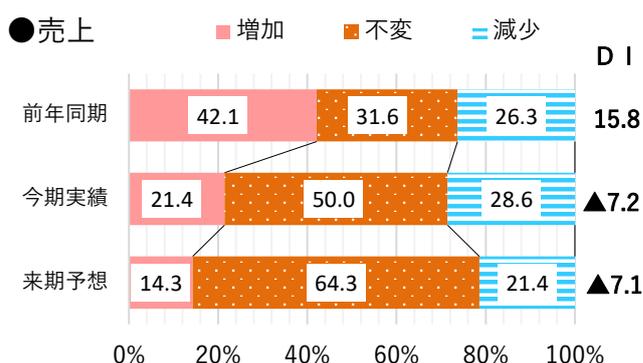
今期（2025.7～9）の業況判断DIは▲21.5で、前年同期（2024.7～9）と比べ27.1ポイント低下しました。

来期（2025.10～12）業況DIは今期（2025.7～9）と比べ14.4ポイント上昇すると予想しています。



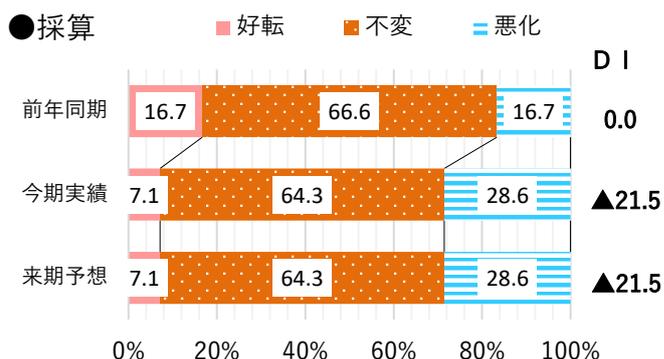
今期の売上DIは▲7.2で、前年同期と比べ23.0ポイント低下しました。

来期の売上DIは今期と比べ0.1ポイント上昇すると予想しています。

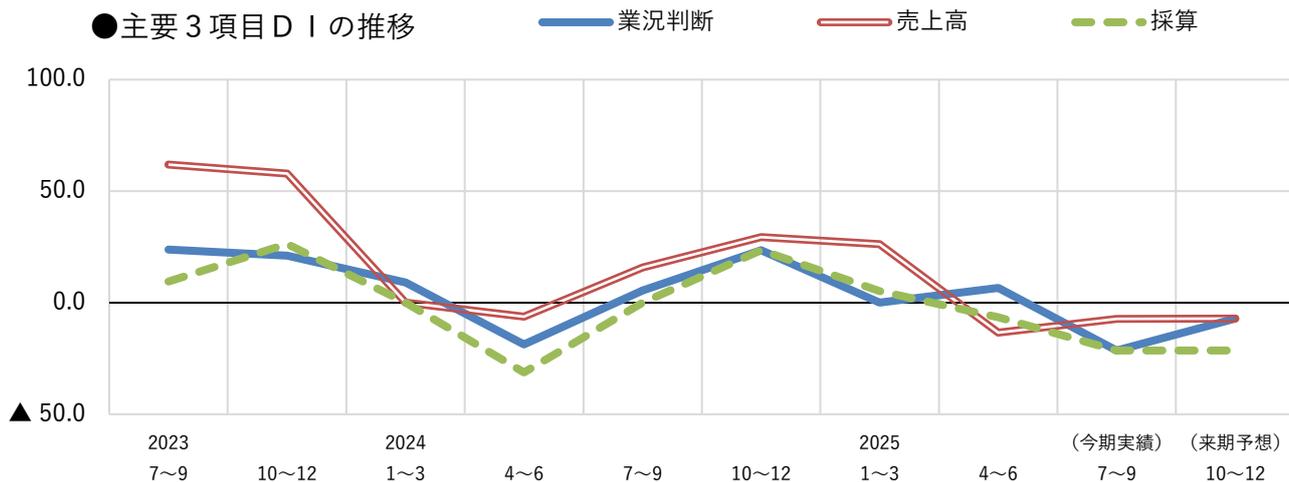


今期の採算DIは▲21.5で、前年同期と比べ21.5ポイント低下しました。

来期の採算DIは今期と比べ変化なしと予想しています。



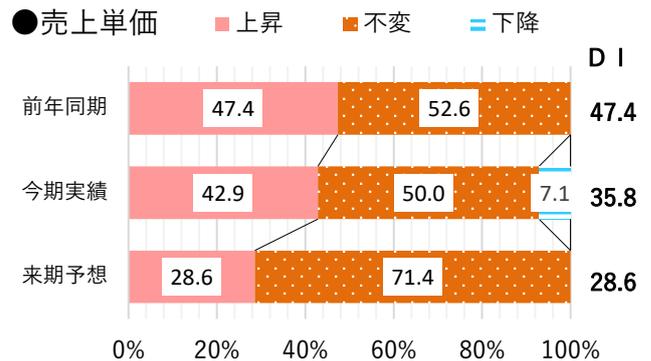
### ●主要3項目DIの推移



## 売上単価、商品仕入単価

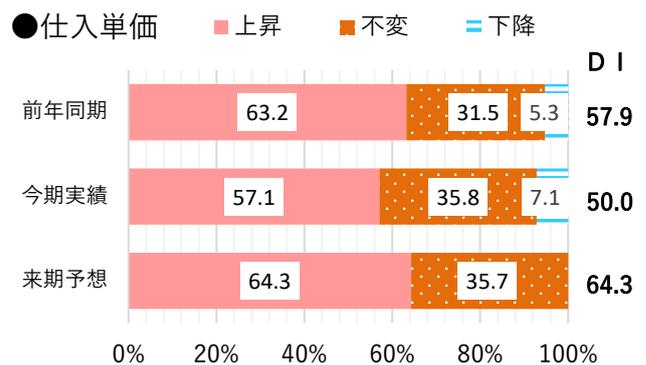
今期の売上単価DIは35.8で、前年同期と比べ11.6ポイント低下しました。

来期の売上単価DIは今期と比べ7.2ポイント低下すると予想しています。



今期の仕入単価DIは50.0で、前年同期と比べ7.9ポイント低下しました。

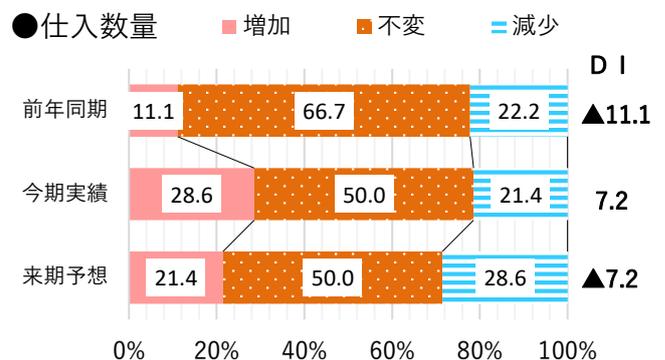
来期の仕入単価DIは今期と比べ14.3ポイント上昇すると予想しています。



## 商品仕入数量、商品在庫数量

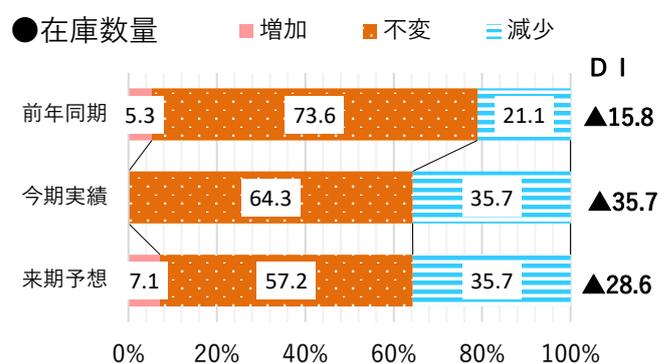
今期の仕入数量DIは7.2で、前年同期と比べ18.3ポイント上昇しました。

来期の仕入数量DIは今期と比べ14.4ポイント低下すると予想しています。



今期の在庫数量DIは▲35.7で、前年同期と比べ19.9ポイント低下しました。

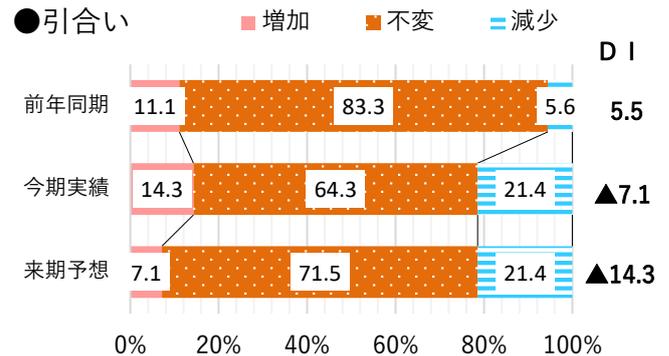
来期の在庫数量DIは今期と比べ7.1ポイント上昇すると予想しています。



## 引合い

今期の引合いDIは▲7.1で、前年同期と比べ12.6ポイント低下しました。

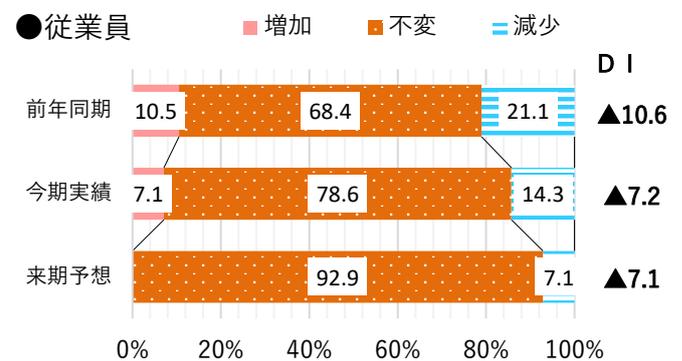
来期の引合いDIは今期と比べ7.2ポイント低下すると予想しています。



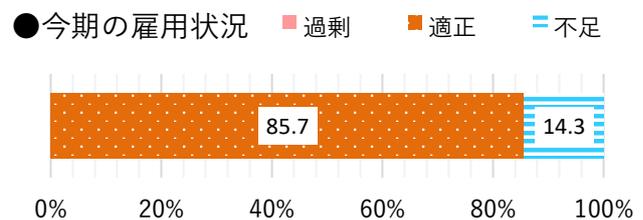
## 従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲7.2で、前年同期と比べ3.4ポイント上昇しました。

来期の従業員DIは今期と比べ0.1ポイント上昇すると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は85.7%、不足していると回答した企業の割合は14.3%でした。



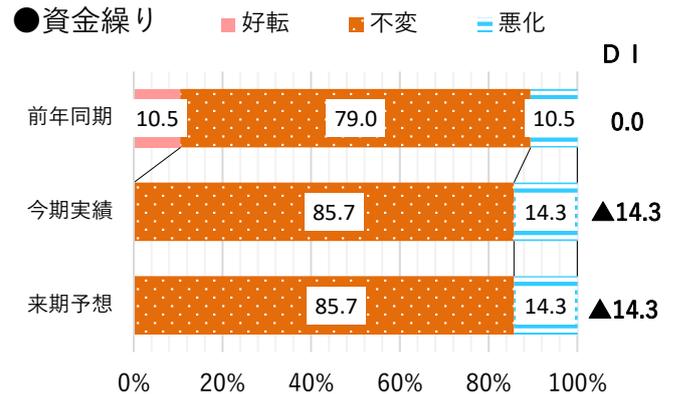
従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、適正である」という回答で、71.4%を占めました。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	0
	不足	1
不変だった	過剰	0
	適正	10
	不足	1
減少した	過剰	0
	適正	2
	不足	0

## 資金繰り、設備投資

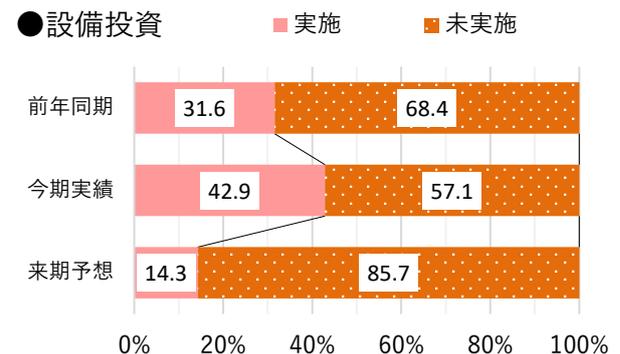
今期の資金繰りDIは▲14.3で、14.3ポイント低下しました。

来期の資金繰りDIは今期と比べ変化なしと予想しています。



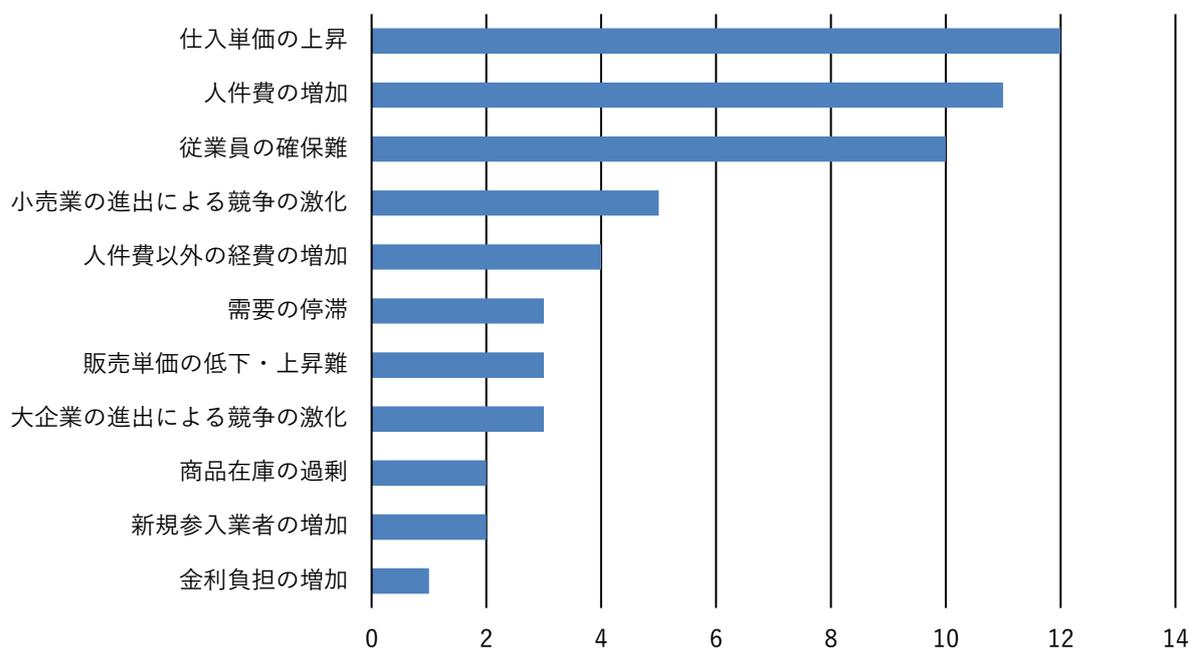
今期の設備投資は42.9%が実施と回答し、前年同期と比べ11.3%上昇しました。投資内容は1位が「OA機器」、2位が「店舗」「倉庫」「車両運搬具」「付帯施設」(同位)でした。

来期は14.3%が設備投資を計画していると回答しています。



## 経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は1位が「仕入単価の上昇」、2位が「人件費の増加」、3位が「従業員の確保難」の順です。



## 企業の声

## [今期の業況について]

- 各種料金の引き上げや仕入単価の上昇、最低賃金の上昇等のすべてが経営に悪影響を与えている。  
(食料・飲料)
- 需要拡大に伴い、前期並みの売上を見込む。(貿易業)
- 従業員の給料の高騰と休日の長期化が見られた。(自動車部品)
- 仕入単価が上がっていて、全部を価格転嫁するよう努めているがなかなか難しい。(包装資材)
- 今期は大型案件があり売上額がアップしたが利益は薄いため若干の業績アップになる見込み。  
(事務用品)

## [来期の業況について]

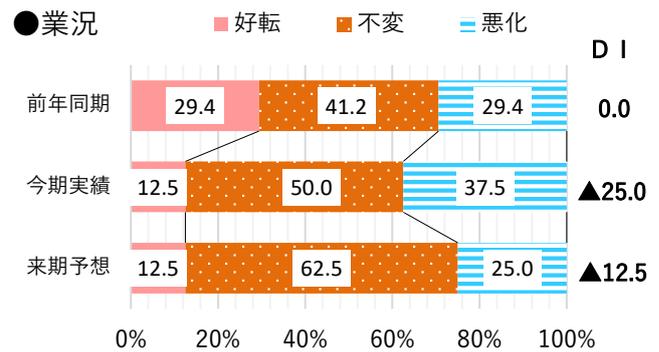
- 最低賃金の毎年の引き上げの裏に隠された、社会保険料の徴収増が日本中の企業の人件費高騰に拍車をかけ、倒産や廃業が激増しさらなる景気の悪化を招くと予想する。(食料・飲料)
- 主力商品の販売が好調で、来季も今期同様の売上が見込める。(貿易業)
- 今期と同じく、業況の回復は難しいが向上する様努める。(包装資材)
- 来期は売上額はダウンするが利益は確保できると見込む。(事務用品)

# 小 売 業

## 業況、売上、採算

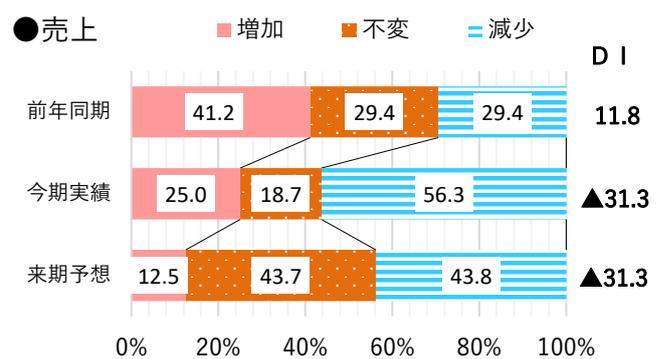
今期（2025.7～9）の業況判断DIは▲25.0で、前年同期（2024.7～9）と比べ25.0ポイント低下しました。

来期（2025.10～12）の業況DIは今期（2025.7～9）と比べ12.5ポイント上昇すると予想しています。



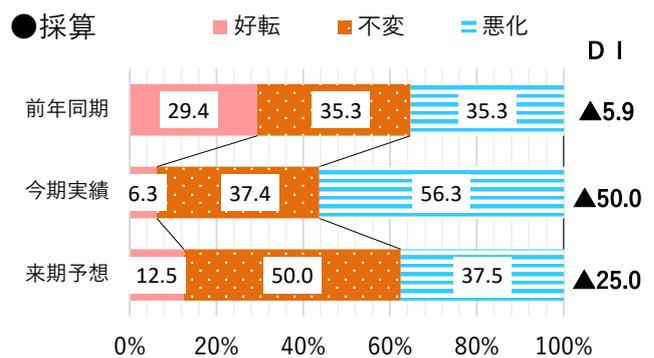
今期の売上高DIは▲31.3で、前年同期と比べ43.1ポイントと大幅に低下しました。

来期の売上DIは今期と比べ変化なしと予想しています。

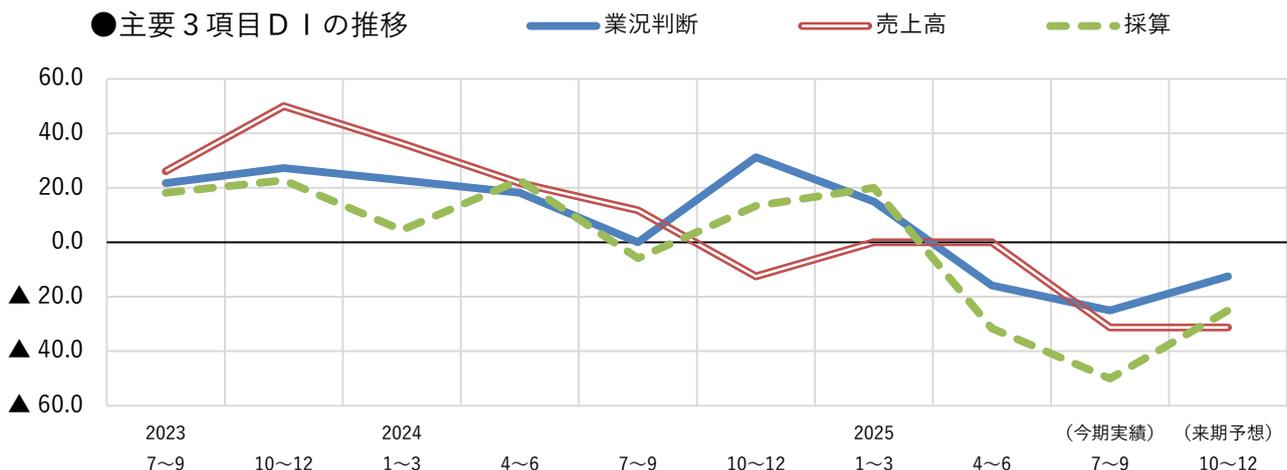


今期の採算DIは▲50.0で、前年同期と比べ44.1ポイントと大幅に低下しました。

来期の採算DIは今期と比べ25.0ポイント上昇すると予想しています。



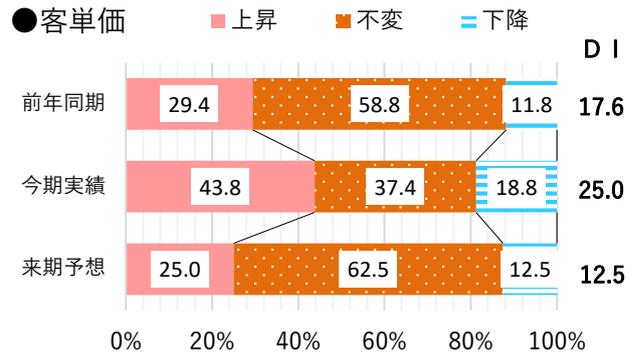
### ●主要3項目DIの推移



客単価、客数

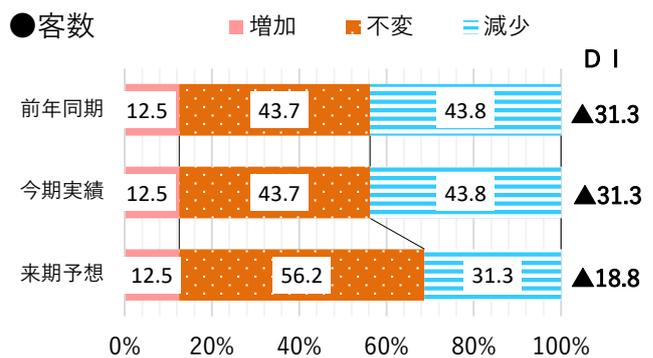
今期の客単価DIは25.0で、前年同期と比べ7.4ポイント上昇しました。

来期の客単価DIは今期と比べ12.5ポイント低下すると予想しています。



今期の客数DIは▲31.3で、前年同期と比べ変化なしでした。

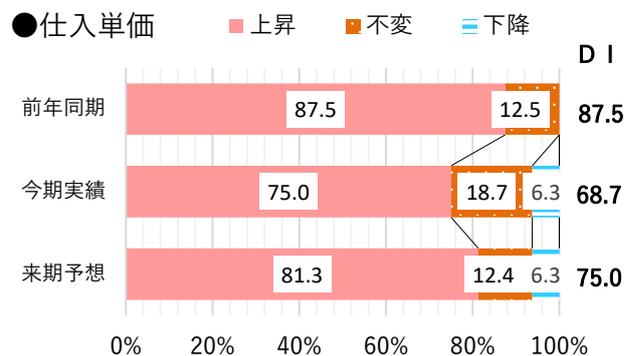
来期の客数DIは今期と比べ12.5ポイント上昇すると予想しています。



商品仕入単価、商品仕入額、商品在庫数

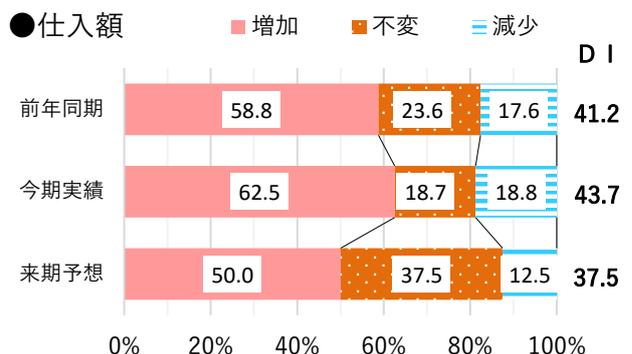
今期の仕入単価DIは68.7で、前年同期と比べ18.8ポイント低下しました。

来期の仕入単価DIは今期と比べ6.3ポイント上昇すると予想しています。



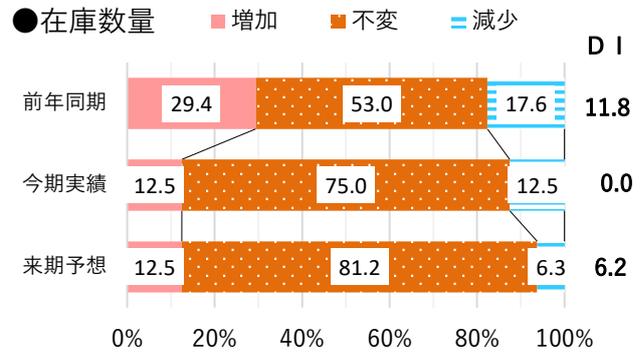
今期の仕入額DIは43.7で、前年同期と比べ2.5ポイント上昇しました。

来期の仕入額DIは今期と比べ6.2ポイント低下すると予想しています。



今期の在庫数量DIは0.0で、前年同期と比べ11.8ポイント低下しました。

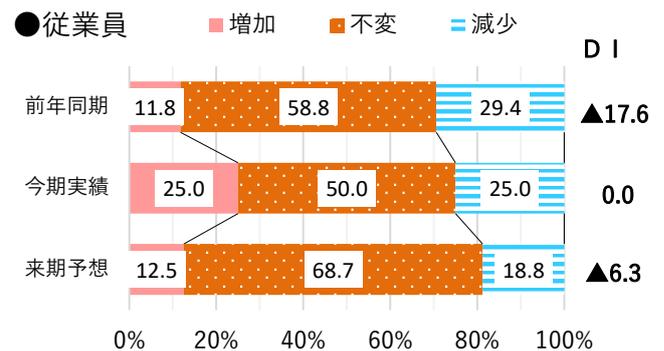
来期の在庫数量DIは今期と比べ6.2ポイント上昇すると予想しています。



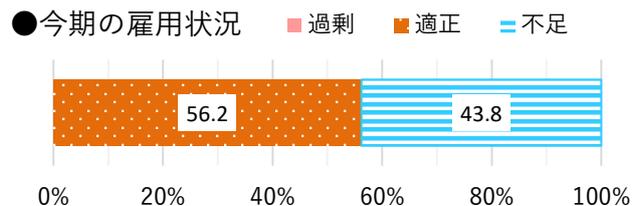
## 従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは0.0で、前年同期と比べ17.6ポイント上昇しました。

来期の従業員DIは今期と比べ6.3ポイント低下すると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は56.2%、不足していると回答した企業の割合は43.8%でした。



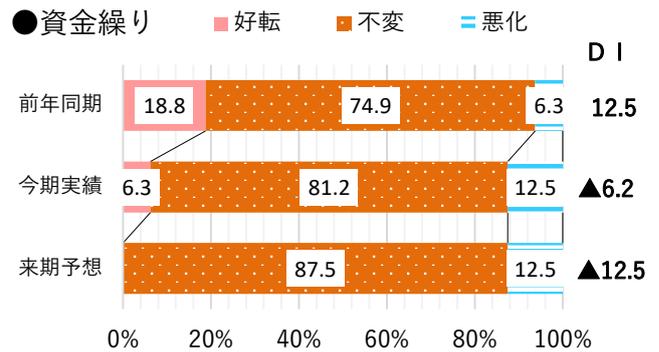
従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、適正である」という回答で、37.5%を占めました。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	2
	不足	2
不変だった	過剰	0
	適正	6
	不足	2
減少した	過剰	0
	適正	1
	不足	3

資金繰り、設備投資

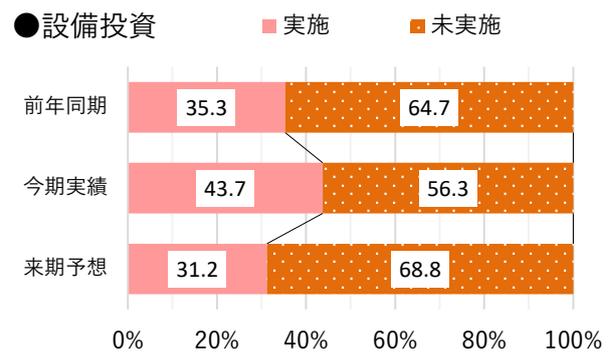
今期の資金繰りDIは▲6.2で、前年同期と比べ、18.7ポイント低下しました。

来期の資金繰りDIは今期と比べ6.3ポイント低下すると予想しています。



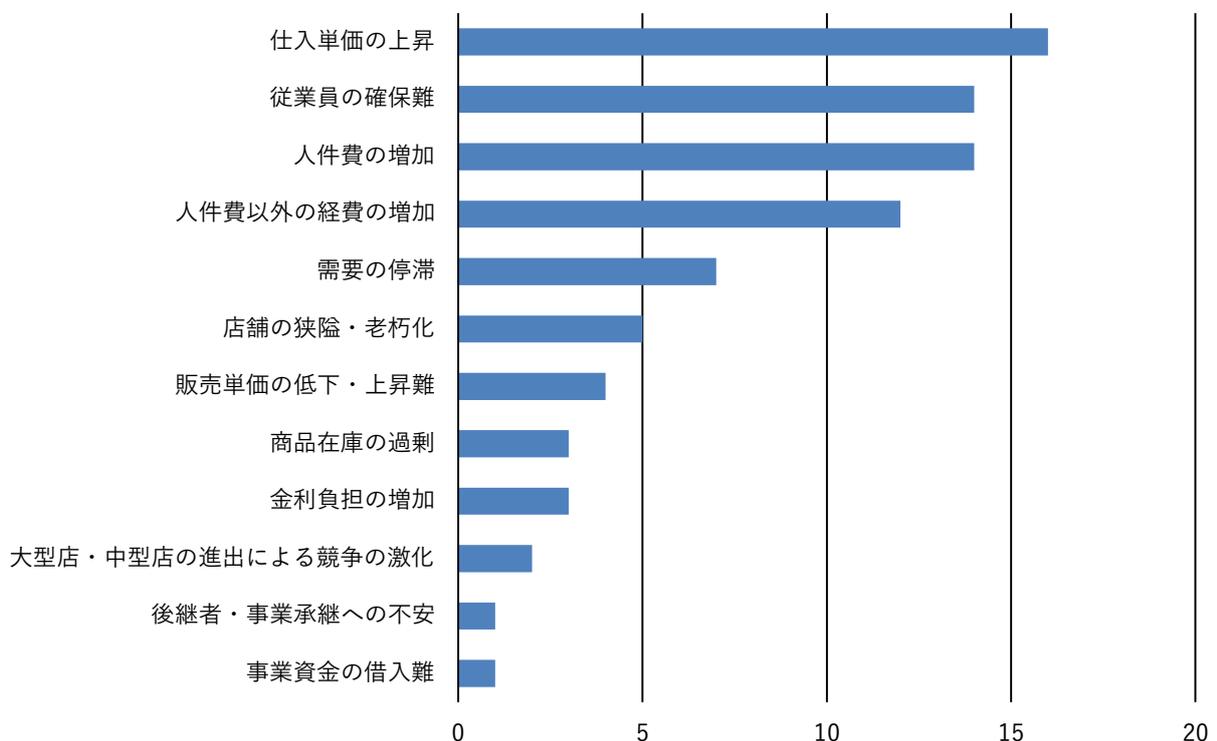
今期の設備投資は43.7%で、前年同期と比べ8.4%上昇しました。投資内容は1位が「OA機器」、2位が「店舗」でした。

来期は26.3%が設備投資を計画していると回答しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は、1位が「仕入単価の上昇」、2位が「従業員の確保難」、3位が「人件費の増加」の順です。



## 企業の声

## [今期の業況について]

- 猛暑により家電や衣料など夏物商品は好調だったが、生鮮食品は不振。値上げが続き客単価や仕入れ額が上がっているが、メーカー条件品も年々減っており、利益率や経常利益は昨年と比べて減少。(大型店)
- 売上は前年を上回り堅調に推移した。人材確保は採用が難航し、最低賃金の上昇に伴い人件費負担は増加傾向にあるが、効率的なシフト運用と生産性向上で吸収を図っている。(大型店)
- 客数減と人手不足により商品に手をかけられなくなっており、地域がら募集しても応募が来ない。  
(大型店)
- 売上増であるが最低賃金の上昇により経費増のため、利益は不変。(ホームセンター)
- 客数、単価、利益率ともに少しだが増加している(食料品小売)
- 客数が減少した。(コンビニ)
- 原材料の仕入単価が上昇し、利益が減少したが、お盆休みの来店数は増加した。(菓子製造小売)
- 仕入値がとて高くなっているので、価格の見直しが必要だと考えている。(菓子製造小売)
- 商品納期が長期化した。(自動車小売)
- 前年の業績が良かった。(自動車小売)
- トータルするとあまり変わっていない。(携帯電話小売)

## [来期の業況について]

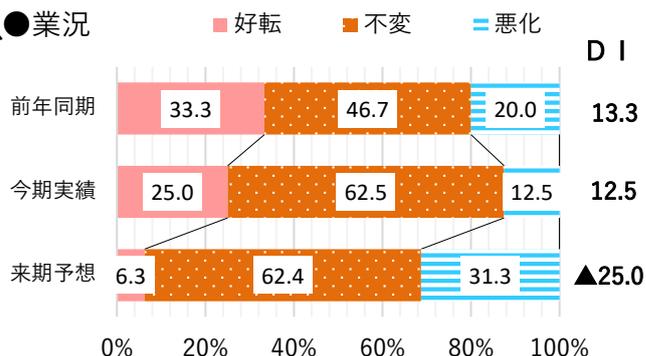
- 物価高により消費傾向に不透明性がある一方地域密着の取り込み強化で安定を見込む。人材確保難と人件費増に対応し生産性改善と効率経営を邁進していく。(大型店)
- 季節品の動向次第ではあるが、食品で価格が出せず客数が減っている状況と、最低賃金も大幅に上がるため今期以上に苦戦すると予測。(大型店)
- 今期と同じだがもっと悪くなると考える。(大型店)
- 売上増であるが最低賃金の上昇により経費増のため、利益は不変。(ホームセンター)
- 商品の単価の上昇が激しいため業況の見直しには不透明感がある。(食料品小売)
- 客数の減少を予想する。(コンビニ)
- 最低賃金、人件費の上昇に伴う値上げが見込まれる。(菓子製造小売)
- 商品納期が長期化しているが11月頃から順次在庫していく見込み。(自動車小売)

# 運輸・倉庫業

## 業況、売上、採算

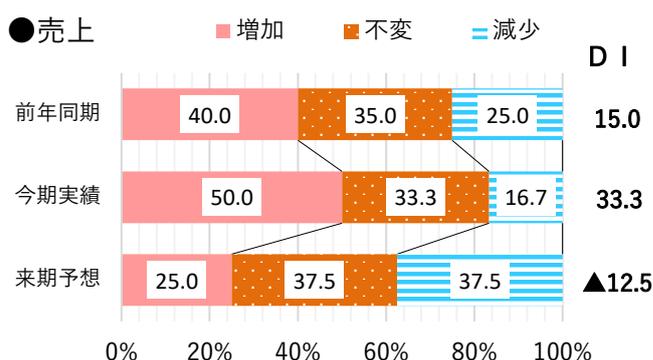
今期（2025.7～9）の業況判断DIは12.5で、●業況前年同期（2024.7～9）と比べ0.8ポイント低下しました。

来期（2025.10～12）の業況DIは今期と比べ（2025.7～9）37.5ポイントと大幅に低下すると予想しています。



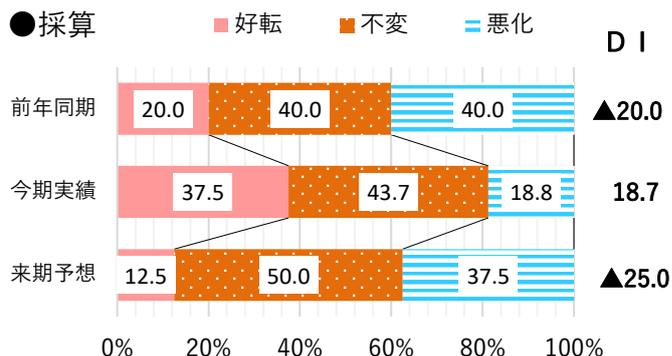
今期の売上高DIは33.3で、前年同期と比べ18.3ポイント上昇しました。

来期の売上DIは今期と比べ45.8ポイントと大幅に低下すると予想しています。

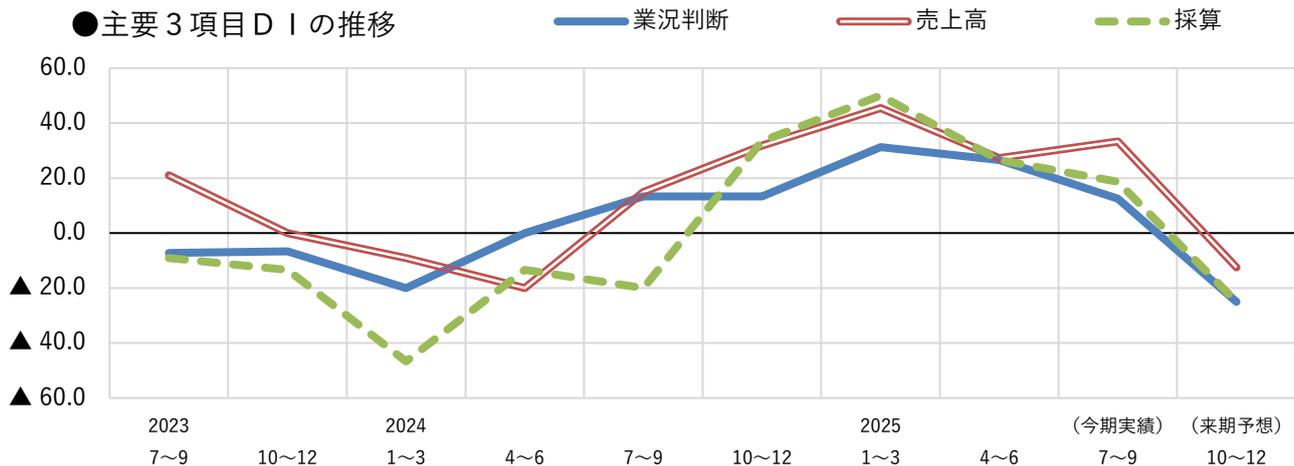


今期の採算DIは18.7で、前年同期と比べ38.7ポイントと大幅に上昇しました。

来期の採算DIは今期と比べ43.7ポイントと大幅に低下すると予想しています。



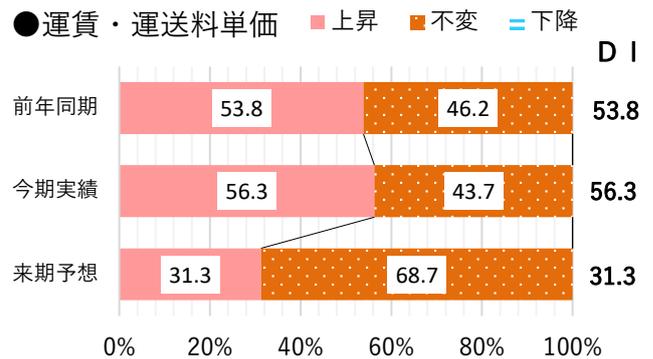
### ●主要3項目DIの推移



運賃・運送料単価、保管料単価

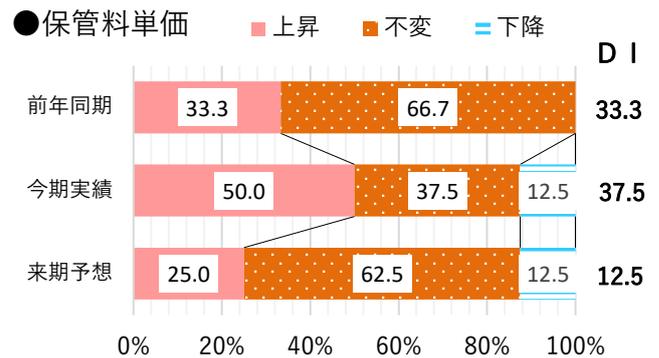
今期の運賃・運送料単価DIは56.3で、前年同期と比べ2.5ポイント上昇しました。

来期の運賃・運送料単価DIは今期と比べ25.0ポイント低下すると予想しています。



今期の保管料単価DIは37.5で、前年同期と比べ4.2ポイント上昇しました。

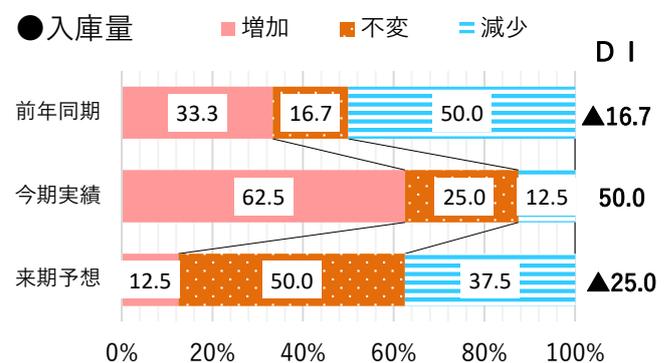
来期の保管料単価DIは今期と比べ25.0ポイント低下すると予想しています。



入庫量、出庫量、保管残高

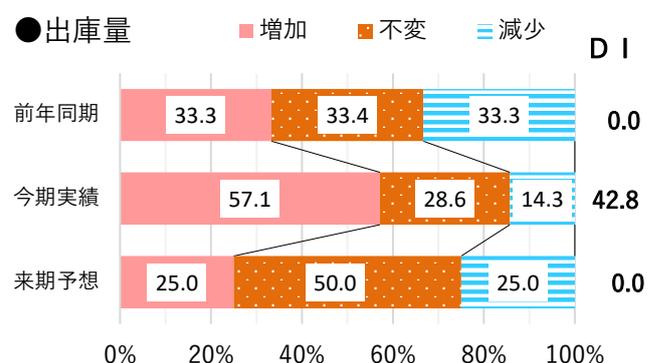
今期の入庫量DIは50.0で、前年同期と比べ66.7ポイントと大幅に上昇しました。

来期の入庫量DIは今期と比べ75.0ポイントと大幅に低下すると予想しています。



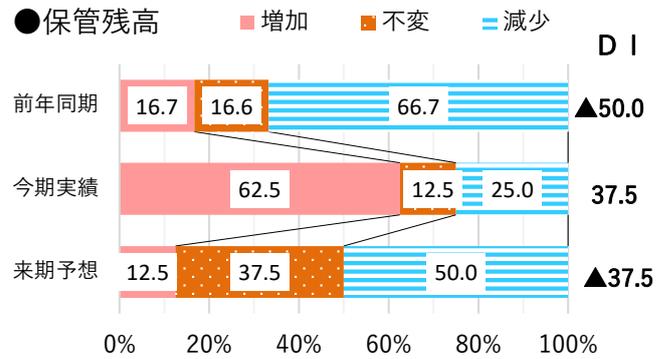
今期の出庫量DIは42.8で、前年同期と比べ42.8ポイントと大幅に上昇しました。

来期の出庫量DIは今期と比べ42.8ポイントと大幅に低下すると予想しています。



今期の保管残高DIは37.5で、前年同期と比べ87.5ポイントと大幅に上昇しました。

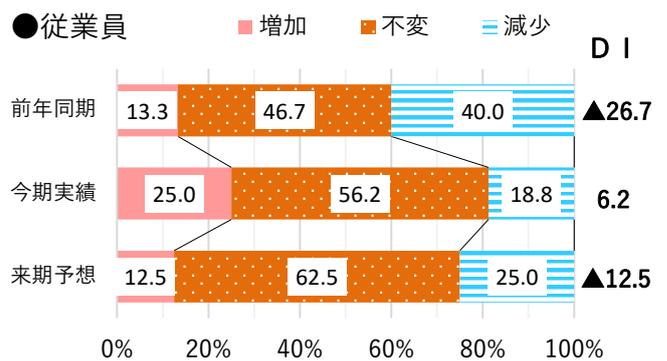
来期の保管残高DIは今期と比べ75.0ポイントと大幅に低下すると予測しています。



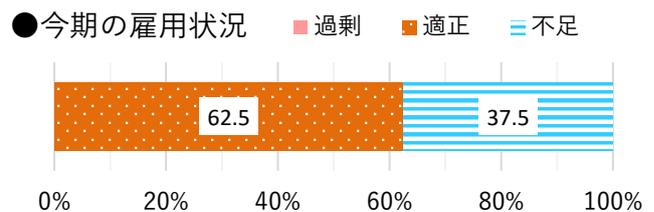
### 従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは6.2で、前年同期と比べ32.9ポイントと大幅に低下しました。

来期の従業員DIは今期と比べ18.7ポイント低下を予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は62.5%、不足していると回答した企業の割合は37.5%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、適正である」という回答で、43.8%を占めました。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	3
	不足	1
不変だった	過剰	0
	適正	7
	不足	2
減少した	過剰	0
	適正	0
	不足	3

資金繰り、設備投資

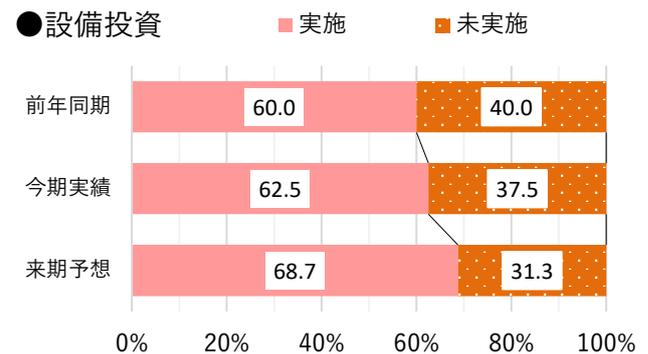
今期の資金繰りDIは12.5で、前年同期と比べ12.5ポイント上昇しました。

来期の資金繰りDIは今期と比べ18.8ポイント低下すると予想しています。



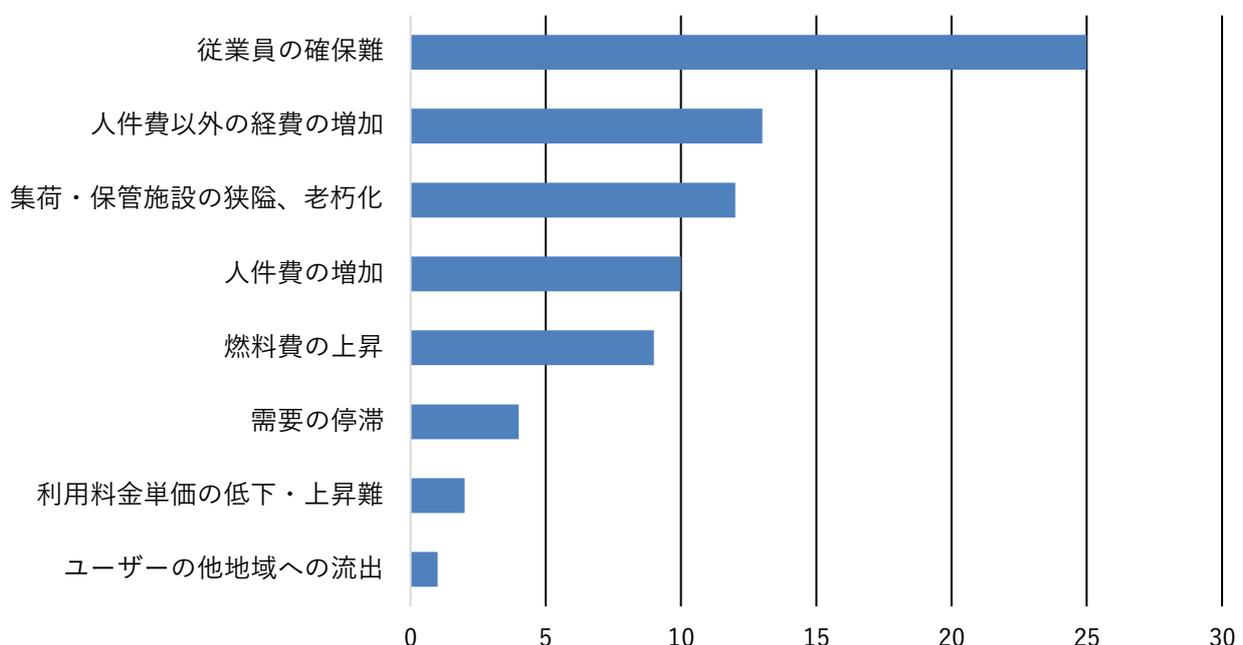
今期の設備投資はを62.5%が実施と回答し、前年同期と比べ2.5%上昇しました。投資内容は、1位が「輸送機材」、2位が「OA機器」でした。

来期は68.7%が設備投資を計画していると回答しています。



経営上の問題点

今期直面した経営上の問題点は、1位が「従業員の確保難」、2位が「人件費以外の経費の増加」、3位が「集荷・保管施設の狭隘、老朽化」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 社員不足により売上確保の機会を損失した。(道路旅客運送)
- 人材不足と燃料費の増加が見られた。(道路旅客郵送)
- 売上額が増加した。(道路旅客郵送)
- 人件費、修理費、消耗品費、フェリー代、備車費、車両費などが値上げのため経費が大幅に上昇した。(道路貨物運送)
- 人材確保も適正で、仕入価格上昇分も適正に価格転嫁できており、出荷も好調である。(道路貨物運送)
- 売上は増加しているが仕入価格(燃料代)も高止まりしているのでさほど変わらない。(道路貨物運送)
- 貨物部門ではドライバーの減少分の確保が出来ず売上額が減少となる。(道路貨物運送)
- 農作物が若干不作のため、輸送量数が落ちた。(道路貨物運送)
- 保管していた備蓄米の出庫が進み保管残高が減少した。また、作業員が不足している。(港湾運送)
- 機材トラブルと天候により、輸送力減少した。(水運)
- 備蓄米及びMA米の出庫量増加により備蓄貨物量が減少したが他の貨物入庫が増えた。(倉庫)
- 売上は伸びているものの、秋からの農産物の取り扱い量が未定である。(倉庫)
- 入庫量が増加した。(倉庫)

[来期の業況について]

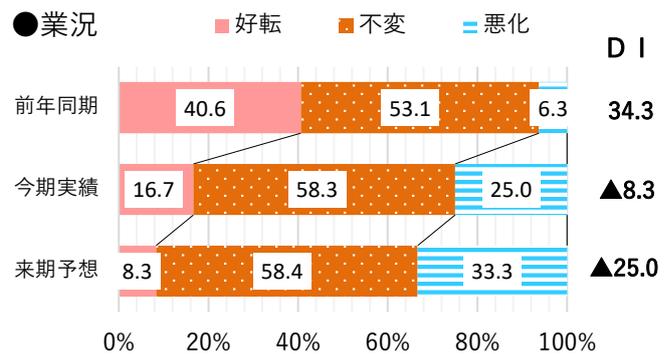
- 6%を超える最低賃金の高騰は、燃料費を始めとする企業物価の高騰と相まって厳しい。(道路旅客運送)
- 売上額が増加した。(道路旅客郵送)
- 人材不足が予想される。(道路旅客郵送)
- 売上は増加しているが仕入価格(燃料代)も高止まりしているのでさほど変わらない。(道路貨物運送)
- さらなる値上が予想され、当社荷主との運賃交渉は年に一回だけなので苦しい。(道路貨物運送)
- ドライバーの確保による売上増が見込めなければ厳しい状態となる。(道路貨物運送)
- 好調の継続を見込む。(道路貨物運送)
- 今期並と予想。(道路貨物運送)
- 保管残高の減少による収入の減少を予想する。(港湾運送)
- 機材入れ替え時の輸送力減少と、農作物の出来次第で売上が変わってくる。(水運)
- 米の新規入庫が未定なので保管料収入が減少する見込み。(倉庫)
- 入庫量の減少が懸念される。(倉庫)
- 不変とする。(倉庫)

# 観光業

## 業況、売上、採算

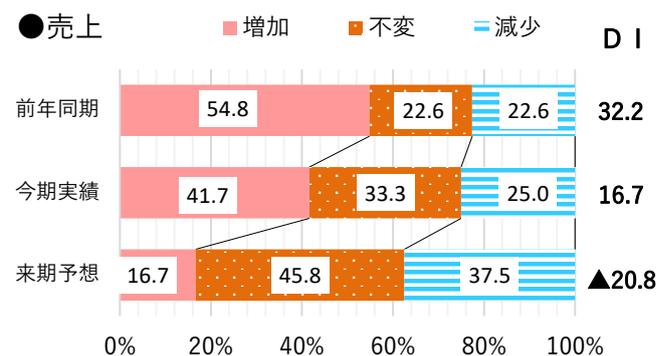
今期（2025.7～9）の業況判断DIは▲8.3で、前年同期（2024.7～9）と比べ42.6ポイントと大幅に低下しました。

来期（2025.10～12）の業況DIは今期（2025.7～9）と比べ16.7ポイント低下すると予想しています。



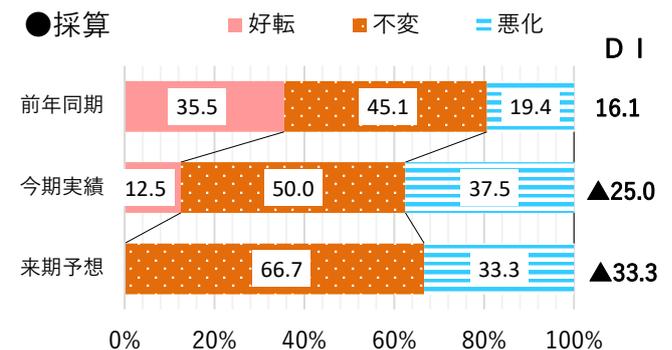
今期の売上DIは16.7で、前年同期と比べ15.5ポイント低下しました。

来期の売上DIは今期と比べ37.5ポイントと大幅に低下すると予想しています。

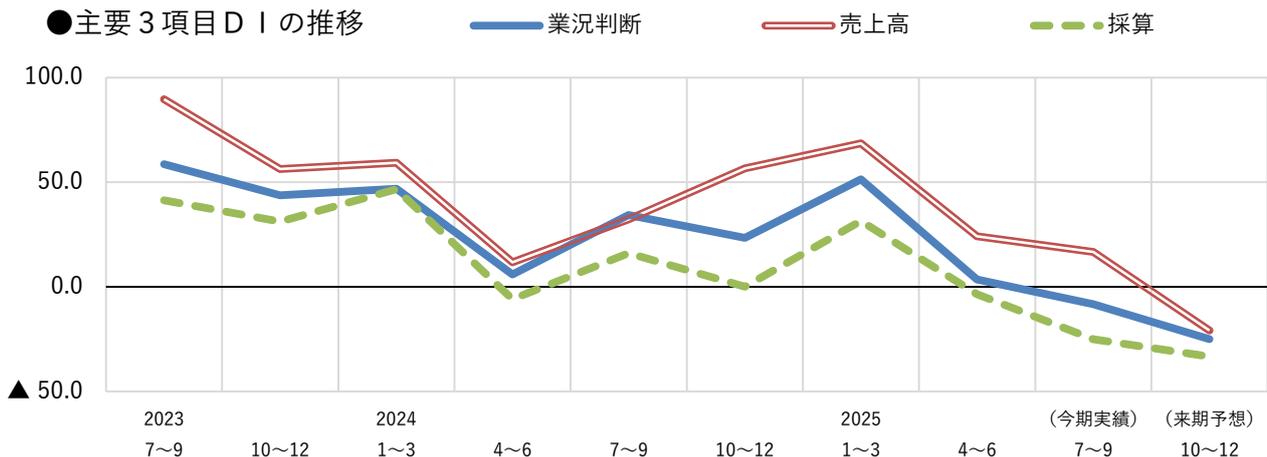


今期の採算DIは▲25.0で、前年同期と比べ41.1ポイントと大幅に低下しました。

来期の採算DIは今期と比べ8.3ポイント低下すると予想しています。



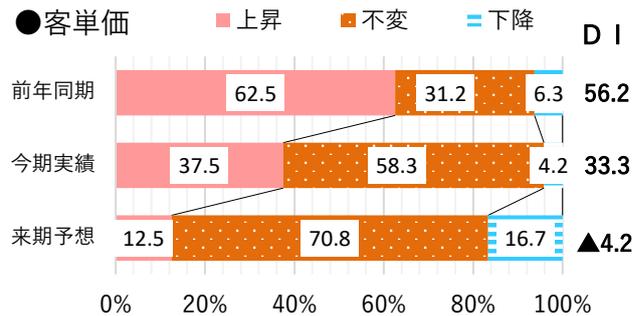
### ●主要3項目DIの推移



客単価、利用客数、日本人客数、外国人客数

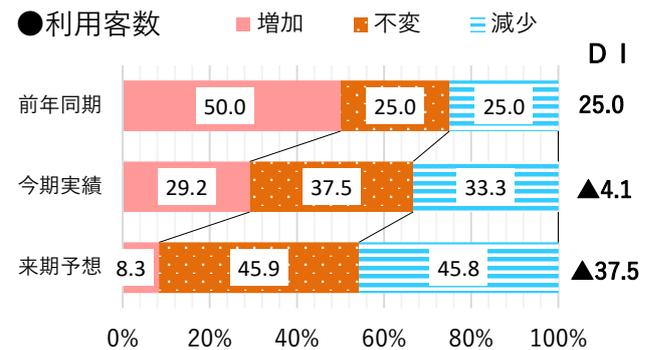
今期の客単価DIは33.3で、前年同期と比べ22.9ポイント低下しました。

来期の客単価DIは今期と比べ37.5ポイントと大幅に低下すると予想しています。



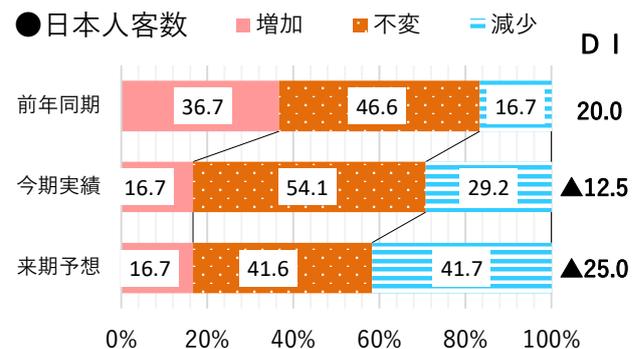
今期の利用客数DIは▲4.1で、前年同期と比べ29.1ポイント低下しました。

来期の利用客数DIは今期と比べ33.4ポイントと大幅に低下すると予想しています。



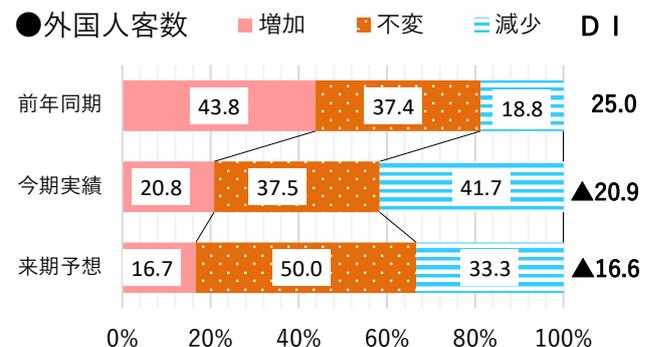
今期の日本人客数DIは▲12.5で、前年同期と比べ32.5ポイントと大幅に低下しました。

来期の日本人客数DIは今期と比べ12.5ポイント低下すると予想しています。



今期の外国人客数DIは▲20.9で、前年同期と比べ45.9ポイントと大幅に低下しました。

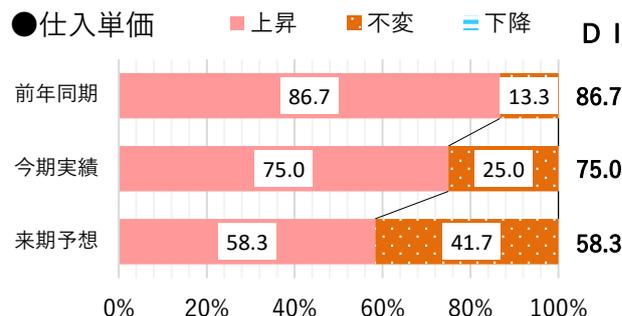
来期の外国人客数DIは今期と比べ4.3ポイント上昇すると予想しています。



## 仕入単価

今期の仕入単価DIは75.0で、前年同期と比べ11.7ポイント低下しました。

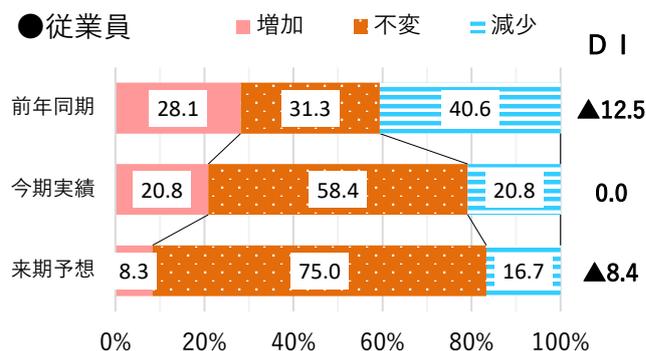
来期の仕入単価DIは今期と比べ16.7ポイント低下すると予想しています。



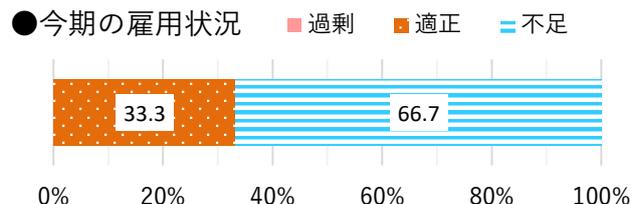
## 従業員、今期の雇用状況

今期の従業員数DIは0.0で、前年同期と比べ12.5ポイント上昇しました。

来期の従業員DIは今期と比べ8.4ポイント低下すると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は33.3%、不足していると回答した企業の割合は66.7%でした。



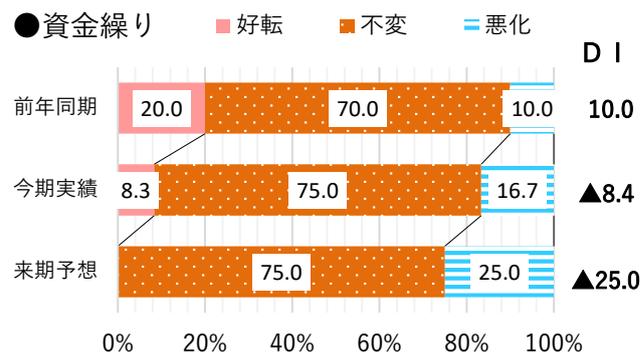
従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」という回答で、37.5%を占めました。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	2
	不足	3
不変だった	過剰	0
	適正	5
	不足	9
減少した	過剰	0
	適正	1
	不足	4

## 資金繰り、設備投資

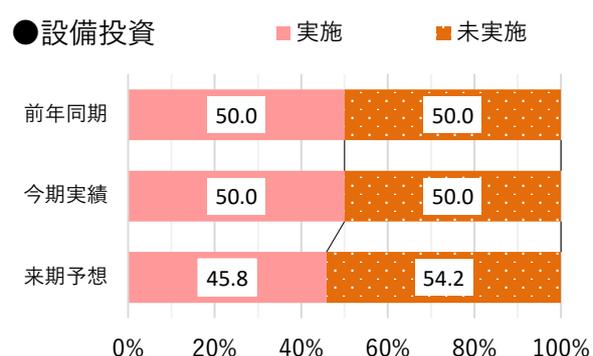
今期の資金繰りDIは▲8.4で、前年同期と比べ18.4ポイント低下しました。

来期の資金繰りDIは今期と比べ16.6ポイント低下すると予想しています。



今期の設備投資は50.0%が実施と回答し、前年同期と比べて変化なしでした。投資内容は、1位が「付帯施設」、2位が「OA機器」でした。

来期は45.8%が設備投資を計画していると回答しています。

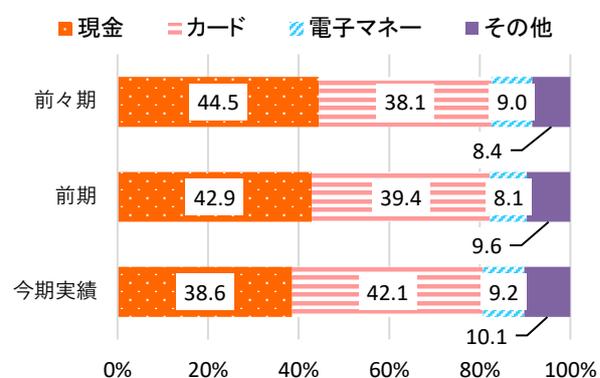


## 今期利用客の決済方法

今期利用客の決済方法の割合は、1位が現金で42.9%、2位がカードで39.4%、3位がその他で9.6%、4位が電子マネーで8.1%となりました。

その他で挙げられた決済方法は、掛売り、クーポン券、バウチャー、銀行振込、バーコード決済の利用です。

●今期利用客の決済方法(%)

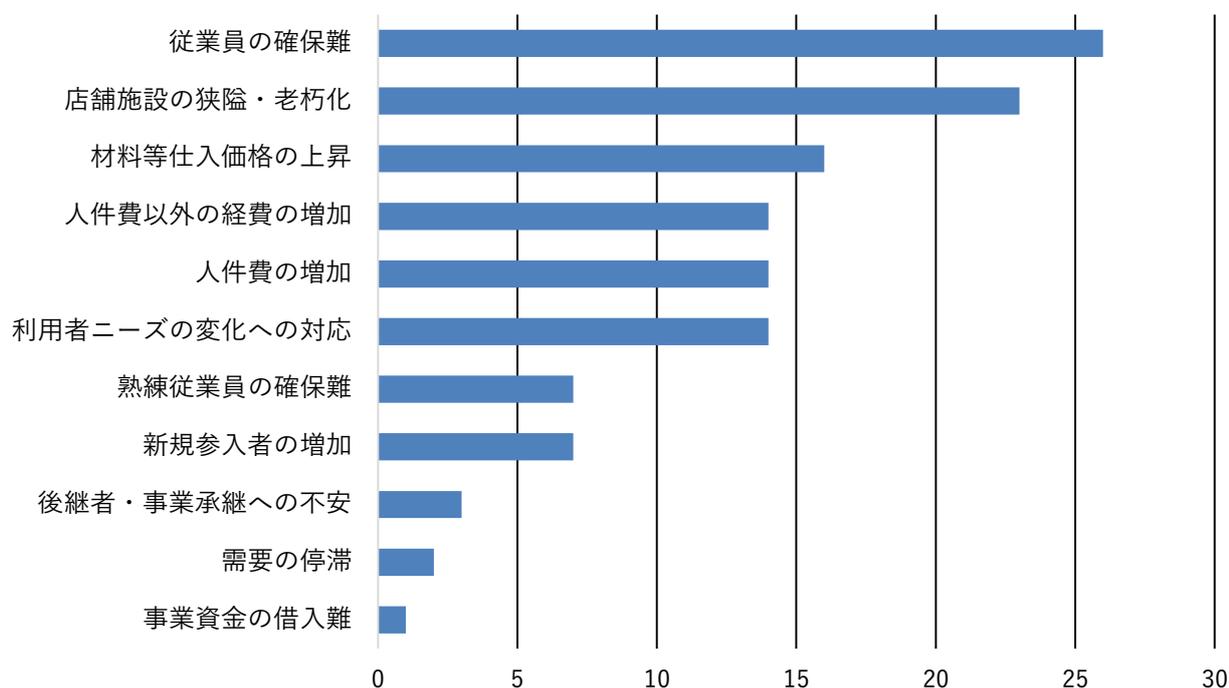


## 客室稼働率

今期調査で回答があった、宿泊業の平均客室稼働率は79.7%でした。

## 経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点は、1位が「従業員の確保難」、2位が「店舗施設の狭隘・老朽化」、3位が「材料等仕入価格の上昇」の順です。



## 企業の声

[今期の業況について]

- 8月より値上を実施し、なんとか黒字になりつつある状況。(飲食)
- 接客人数が足りなく、対応できない。(飲食)
- 業況は、総じて微減で堅調に推移した。観光客数は、インバウンド客が昨年同期比で勢いがなく微減で、国内客は不変であった。インバウンドは売上高も微減であった。仕入価格が上昇したが、販売価格の値上で収支は微減。若い社員が退職したが、業況が停滞していたのでパート、アルバイトで補った。賃金の上昇圧力は、極めて強いものがあった。(土産品)
- 前年並。(土産品)
- 人手不足で対応が出来ない。(レンタカー)
- 国内旅行が好調。(レンタカー)
- 売上は単価上昇で微増だが原価、経費の上がり分を吸収できない。(ホテル)
- 仕入価格が高騰し、供給過多と札幌への流動が見られた。(ホテル)
- インバウンドは当ホテルはそんなに多くなく不変。(ホテル)
- 地震のうわさによる影響から予約が減少した。(ホテル)
- 例年に対して海外からのお客様が多く、対して国内客は維持という状況のため、利用客数はプラスであった。(社会教育)
- 昨年同期と比較し、天候にも恵まれ売上・乗船客数とも増加した。(水運業)
- 売上高は若干増加し、仕入価格は上昇も粗利が増加した。(娯楽業)

[来期の業況について]

- 接客人数が足りなく、多忙期のため対応できない。(飲食)

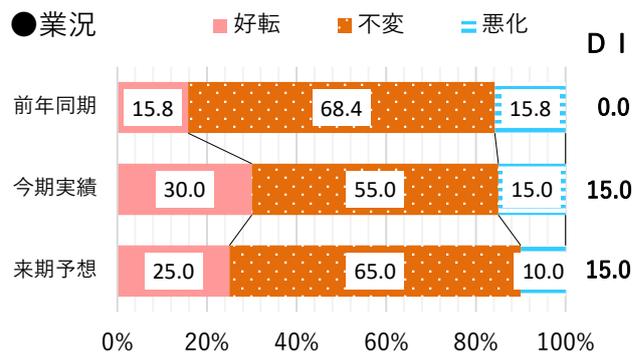
- 仕入価格、経費が高騰するので採算面が不安。（飲食）
- 景況は低迷期に入ると予想している。国内客は不変であるが、インバウンドの減少が、今後顕著になり、来店客減に伴って売上高が減少する。令和の米騒動で主原料の高騰が現実化しており、仕入価格の大幅な増加を覚悟しているが、販売価格を上げるのは躊躇しているため収支は悪化すると思われる。人手不足を解消するために外国人社員の採用を予定しているが、今秋の最低賃金が上昇で人件費の増加と収支の悪化を見込むため前期比、前年同期比で業況は、大幅に悪化すると悲観的な予想をせざるを得ない。  
(土産品)
- 不変である。（土産品）
- 人材の増員が出来れば業況好転の可能性はある。（レンタカー）
- インバウンドは当ホテルはそんなに多くなく不変。パートが若干少なかったが補充できたので問題ない。  
(ホテル)
- 売上は単価UPで微増だが原価、経費の上がり分を吸収できない。（ホテル）
- 仕入価格が高騰し、供給過多と札幌への流動が見られた。（ホテル）
- 夏に比べると学校団体の割合が増えてくるため客単価が若干下がる。外国人観光客の増加がそれをどこまで抑えられるか注目している。（社会教育）
- 今期は年間で最も売上、乗船客が多い時期であったが、来期は減少が見込まれる。（水運業）
- 閑散期に入る。（娯楽業）

# サービス業

## 業況、売上、採算

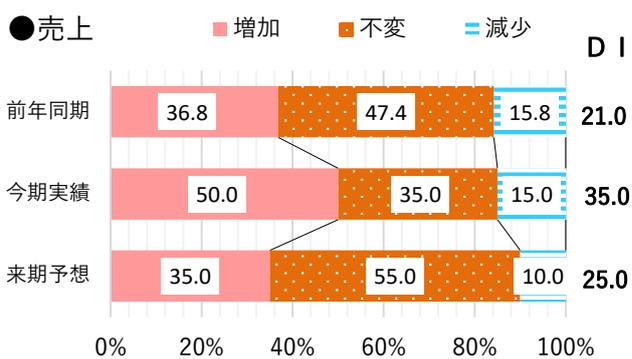
今期（2025.7～9）の業況判断DIは15.0で、前年同期（2024.7～9）と比べ15.0ポイント上昇しました。

来期（2025.10～12）の業況DIは今期（2025.7～9）と比べ変化なしと予想しています。



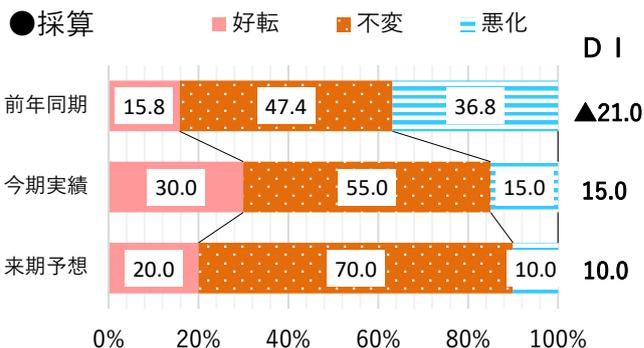
今期の売上高DIは35.0で、前年同期と比べ14.0ポイント上昇しました。

来期の売上DIは今期と比べ10.0ポイント低下すると予想しています。

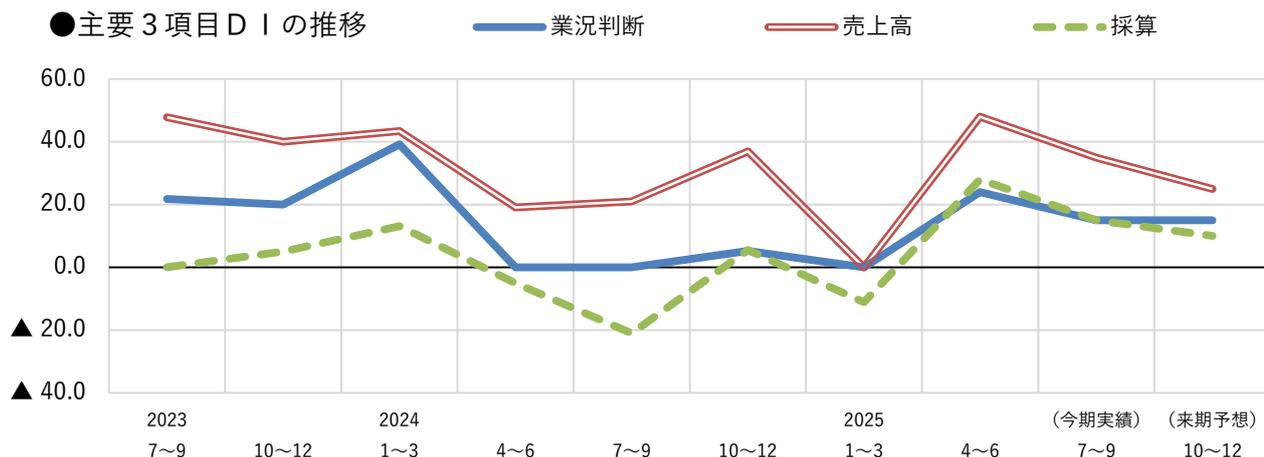


今期の採算DIは15.0で、前年同期と比べ36.0ポイントと大幅に上昇しました。

来期の採算DIは今期と比べ5.0ポイント低下すると予想しています。



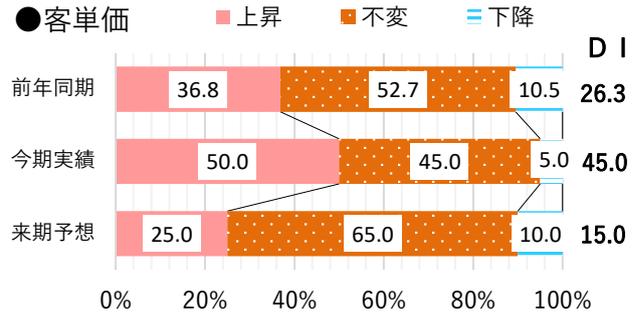
### ●主要3項目DIの推移



客単価、利用客数、仕入単価

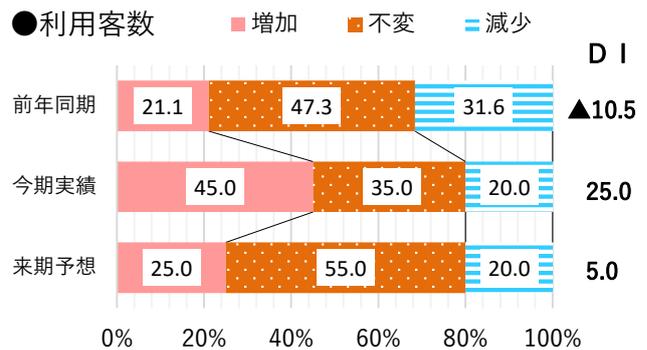
今期の客単価DIは45.0で、前年同期と比べ18.7ポイント上昇しました。

来期の客単価DIは今期と比べ30.0ポイントと大幅に低下すると予想しています。



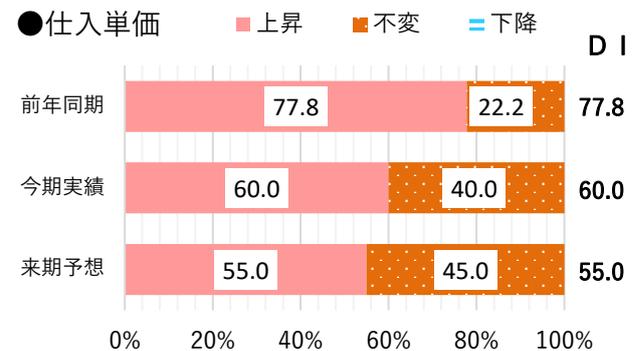
今期の利用客数DIは25.0で、前年同期と比べ35.5ポイントと大幅に上昇しました。

来期の利用客数DIは今期と比べ20.0ポイント低下すると予想しています。



今期の仕入単価DIは60.0で、前年同期と比べ17.8ポイント低下しました。

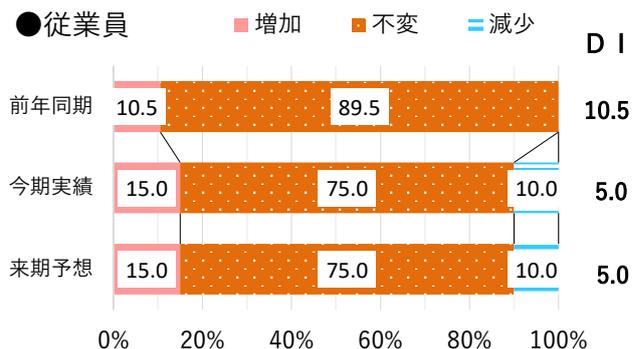
来期の仕入単価DIは今期と比べ5.0ポイント低下すると予想しています。



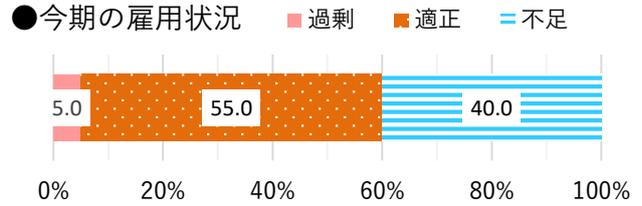
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員数DIは5.0で、前年同期と比べ5.5ポイント低下しました。

来期の従業員DIは今期と比べ変化なしと予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業は5.0%、適正であると回答した企業の割合は55.0%、不足していると回答した企業の割合は40.0%でした。



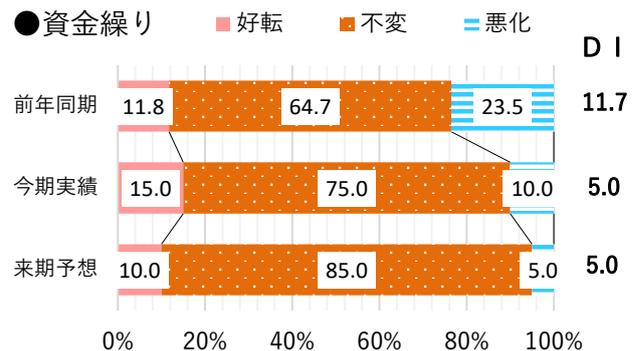
従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、適正である」という回答で、50.0%を占めました。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	1
	適正	1
	不足	1
不変だった	過剰	0
	適正	10
	不足	5
減少した	過剰	0
	適正	0
	不足	2

## 資金繰り、設備投資

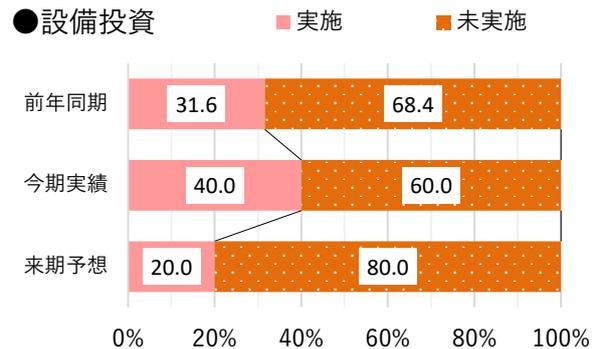
今期の資金繰りDIは5.0で、前年同期と比べ6.7ポイント低下しました。

来期の資金繰りDIは今期と比べ変化なしと予想しています。



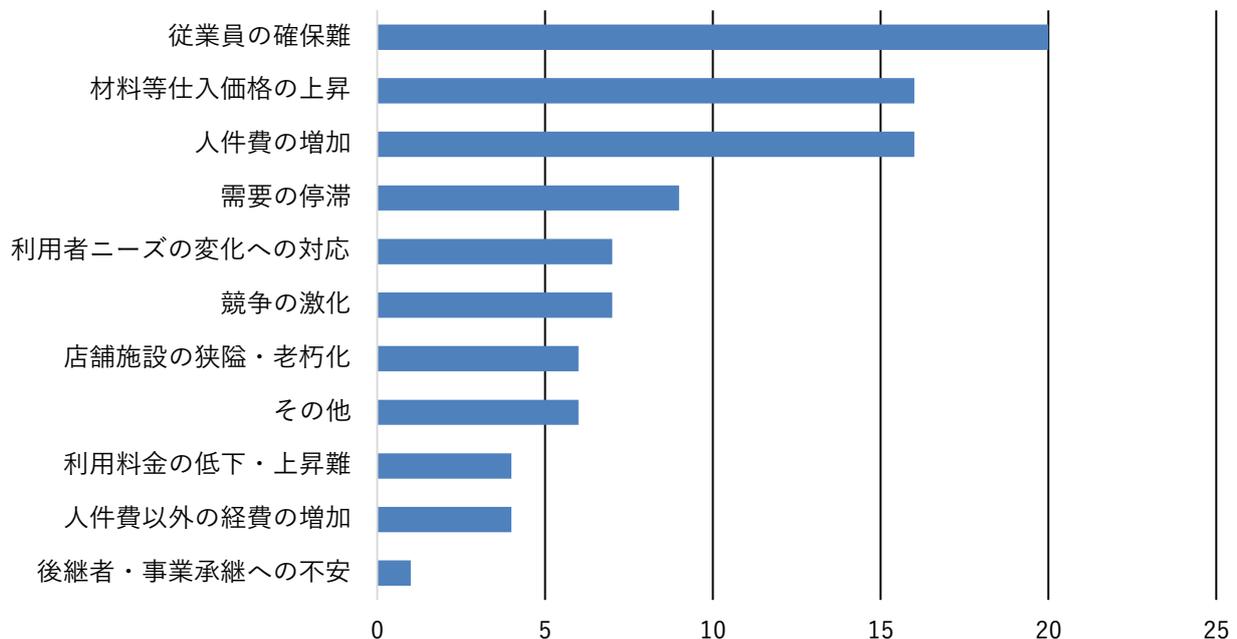
今期の設備投資は40.0%が実施と回答し、前年同期と比べ8.4%上昇しました。投資内容は、1位が「サービス設備」、2位が「OA機器」「車両運搬具」(同位)でした。

来期は20.0%が設備投資を計画していると回答しています。



## 経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点は、1位が「従業員の確保難」、2位が「材料等仕入価格の上昇」、3位が「人件費の増加」の順です。



## 企業の声

## [今期の業況について]

- 米を中心に値上がりが続き、最低賃金の値上もこれから響くと思うが、年間2回の値上には踏み込めない。観光客の来店も波がある。(飲食店)
- 本格的な観光シーズンで本州からの観光客が増えて売上が上昇し、客単価も上昇するが魚介類の値上がりが大変である。(飲食店)
- 売上増加しMICE案件や教育旅行案件の取り扱いが増加した。(旅行代理店)
- 前年同期の売上額が多かった。(ビルメンテナンス)
- 利用客数の減少、写真館での撮影減少なのかプリントの注文が減少した。(写真業)
- 仕入値、人件費の高騰により業績悪化する予定だが値上、賃上げも合わせて行っている。(各種物品賃貸業)
- 売上額、仕入価格ともに変化なし。(情報処理・提供サービス業)
- 夏の暑さでのヘアチェンジと高齢化によるカラーの頻度が増した。売上が上昇しても仕入価格も上昇している。(美容業)
- 売上保険料が増加した。(保険業)
- 大きな変動はなく、パートを新たに採用したいが応募がない。(不動産代理・仲介業)
- キャディの減少や猛暑の影響によりプレー収入が減少したが、入会金の上昇で昨年並みの経常利益を確保した。(スポーツ施設)

## [来期の業況について]

- 今期程の売上は望めない見通しである。(飲食店)
- 前年比で受注が低い。(旅行代理店)
- 前年同期の売上額が少なかった。(ビルメンテナンス)
- デジタル化、電子化の波で年賀状が減少し、売上高ものびない。(写真業)

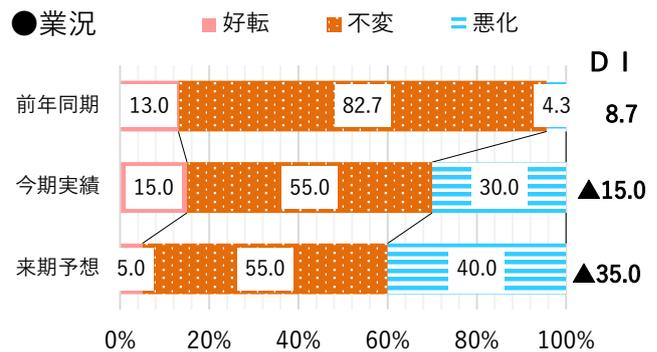
- 仕入値、人件費の高騰により業績悪化する予定だが値上、賃上げも合わせて行う予定。（各種物品賃貸業）
- 売り上げ増額の見込み、仕入価格は現在も変動する予想なし。（情報処理・提供サービス業）
- 例年秋は落ち着いて来るので変化はないと思われる。（美容業）
- 昨年より上昇傾向である。（保険業）
- 大きな変動はない。（不動産代理・仲介業）
- 新卒のキャディを5名確保予定である。（スポーツ施設）

# 建設業

## 業況、売上、採算

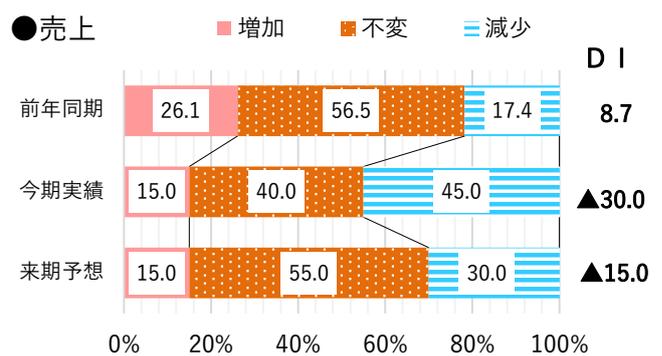
今期（2025.7～9）の業況判断DIは▲15.0で、前年同期（2024.7～9）と比べ23.7ポイント低下しました。

来期（2025.10～12）の業況DIは今期（2025.7～9）と比べ20.0ポイント低下すると予想しています。



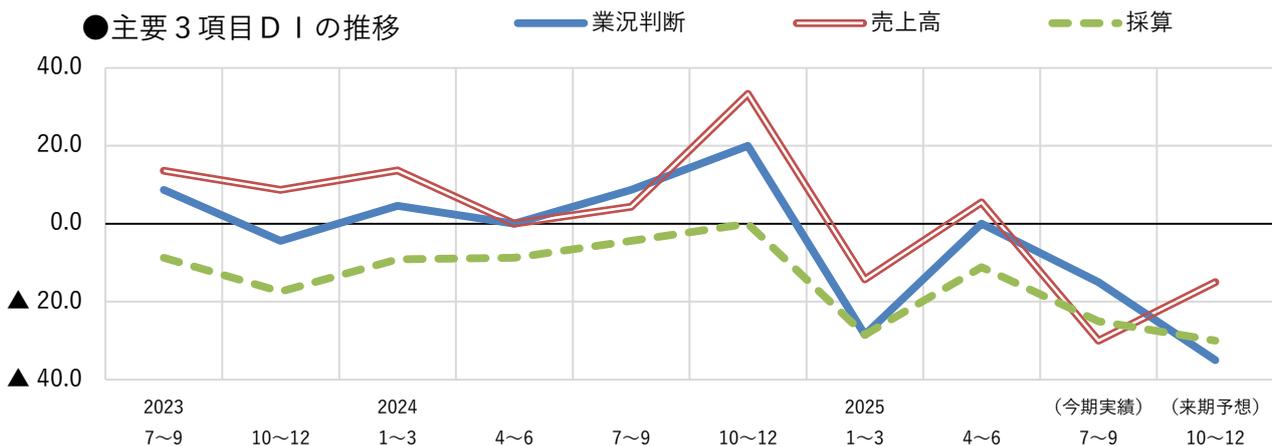
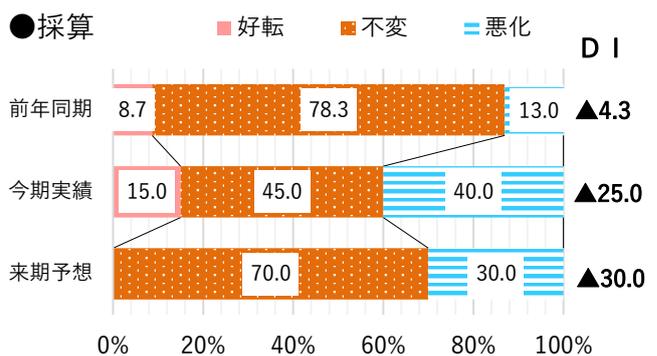
今期の売上高DIは▲30.0で、前年同期と比べ38.7ポイントと大幅に低下しました。

来期の売上DIは今期と比べ15.0ポイント上昇すると予想しています。



今期の採算DIは▲25.0で、前年同期と比べ20.7ポイント低下しました。

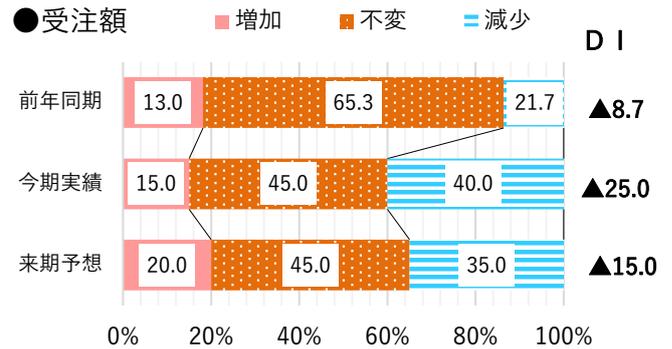
来期の採算DIは今期と比べ5.0ポイント低下すると予想しています。



受注（新規契約工事）額、契約残（未消化工事高）、材料仕入単価

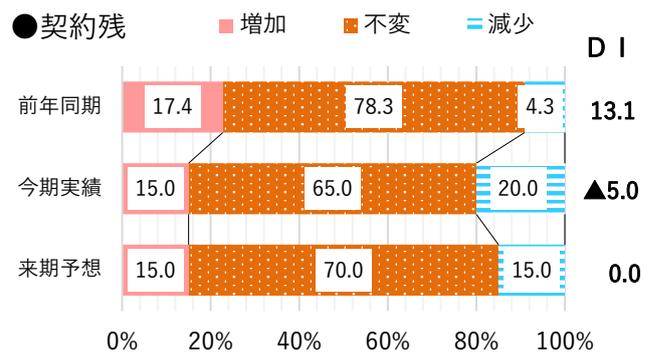
今期の受注額DIは▲25.0で、前年同期と比べ16.3ポイント低下しました。

来期の受注額DIは今期と比べ10.0ポイント上昇すると予想しています。



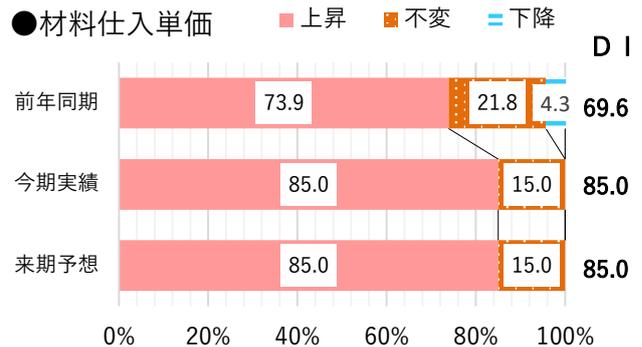
今期の契約残DIは▲5.0で、前年同期と比べ18.1ポイント低下しました。

来期の契約残DIは今期と比べ5.0ポイント上昇すると予想しています。



今期の材料仕入単価DIは85.0で、前年同期と比べ15.4ポイント上昇しました。

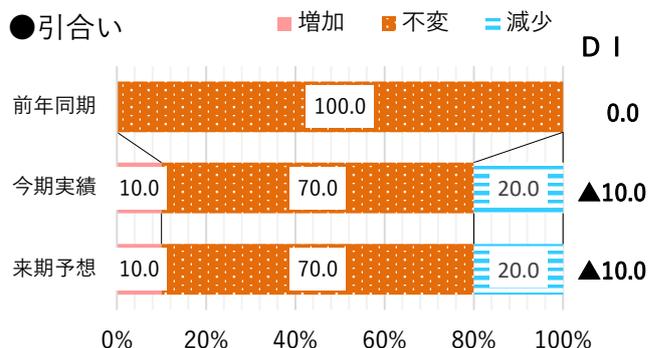
来期の材料仕入単価DIは今期と比べ変化なしと予想しています。



引合い

今期の引合いDIは▲10.0で、前年同期と比べ10.0ポイント低下しました。

来期の引合いDIは今期と比べ変化なしと予想しています。



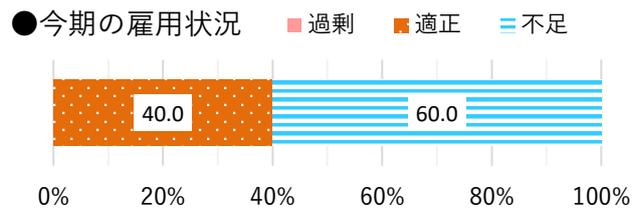
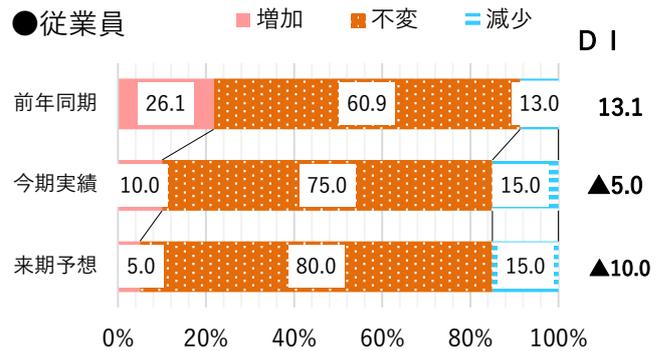
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲5.0で、前年同期と比べ18.1ポイント低下しました。

来期の従業員DIは今期と比べ5.0ポイント低下すると予想しています。

今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は40.0%、不足していると回答した企業の割合は60.0%でした。

従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、適正である」という回答で、40.0%を占めました。



今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	0
	不足	2
不変だった	過剰	0
	適正	8
	不足	7
減少した	過剰	0
	適正	0
	不足	3

資金繰り、設備投資

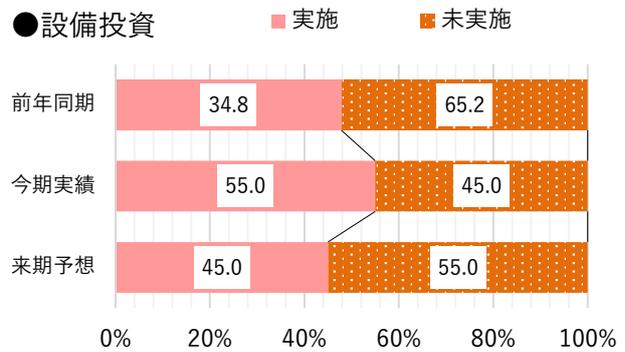
今期の資金繰りDIは▲5.0で、前年同期と比べ13.7ポイント低下しました。

来期の資金繰りDIは今期と比べ5.0ポイント低下すると予想しています。



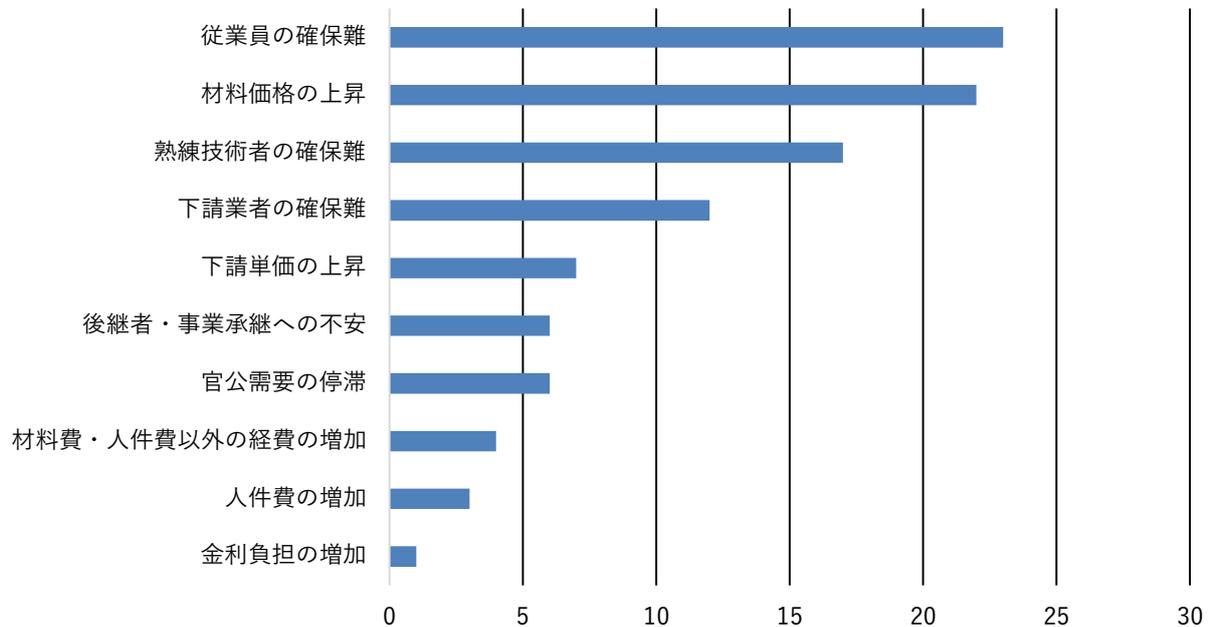
今期の設備投資は55.0%が実施と回答し、前年同期と比べ20.2%上昇しました。投資内容は、1位が「車両運搬具」、2位が「OA機器」でした。

来期は45.0%が設備投資を計画していると回答しています。



### 経営上の問題点

今期直面した経営上の問題点は、1位が「従業員の確保難」、2位が「材料価格の上昇」、3位が「熟練技術者の確保難」の順です。



### 企業の声

[今期の業況について]

- 人材不足が課題。(一般土木事業)
- 材料費、仕入価格は上昇したが、受注がしやすくなった。(一般土木事業)
- 年間維持作業が主な売上のため、中間前払金等でなんとかまかなえている。(造園業)
- 受注・売上ともに減少している。(一般管工事業)
- 完成工事額、受注額ともに上昇し今期は利益が出ているが材料価格が上昇しているため来期は不安。(電気工事業)

[来期の業況について]

- 人材不足。(一般土木事業)
- 冬季に入ることにより工事売上が減少する。(造園業)

- 受注・売上ともに減少が継続する見込み。（一般管工事業）
- 前期と同様と予想する。（電気工事業）

# 市内企業倒産状況

2025年7月~9月

負債1千万円以上、東京商工リサーチ調べ

倒産件数は1件、前年同期比不変  
負債総額は1000万円、前年同期比減少

	倒産件数	負債総額
	<b>1件</b>	<b>1000万円</b>
前年同期比	件数 ±0件 (前年同期 1件)	負債 -1900万円 (前年同期 2900万円)
■7月 なし		
■8月 訪問介護（負債1,000万円：業績不振による破産）の1件が発生した。		
■9月 なし		

## 市内建築確認申請受付件数・新設着工住宅戸数状況

2025年7月~9月、小樽市建設部調べ

建築確認申請受付件数は51件、前年同期比減少  
新設着工住宅戸数は37棟44戸、前年同期比減少

	建築確認申請受付件数	新設着工住宅戸数
	<b>51件</b>	<b>37棟44戸</b>
前年同期比	件数 -26件 (前年同期 77件)	戸数 -1棟-28戸 (前年同期 38棟72戸)
※変更確認又は変更通知を除く。		